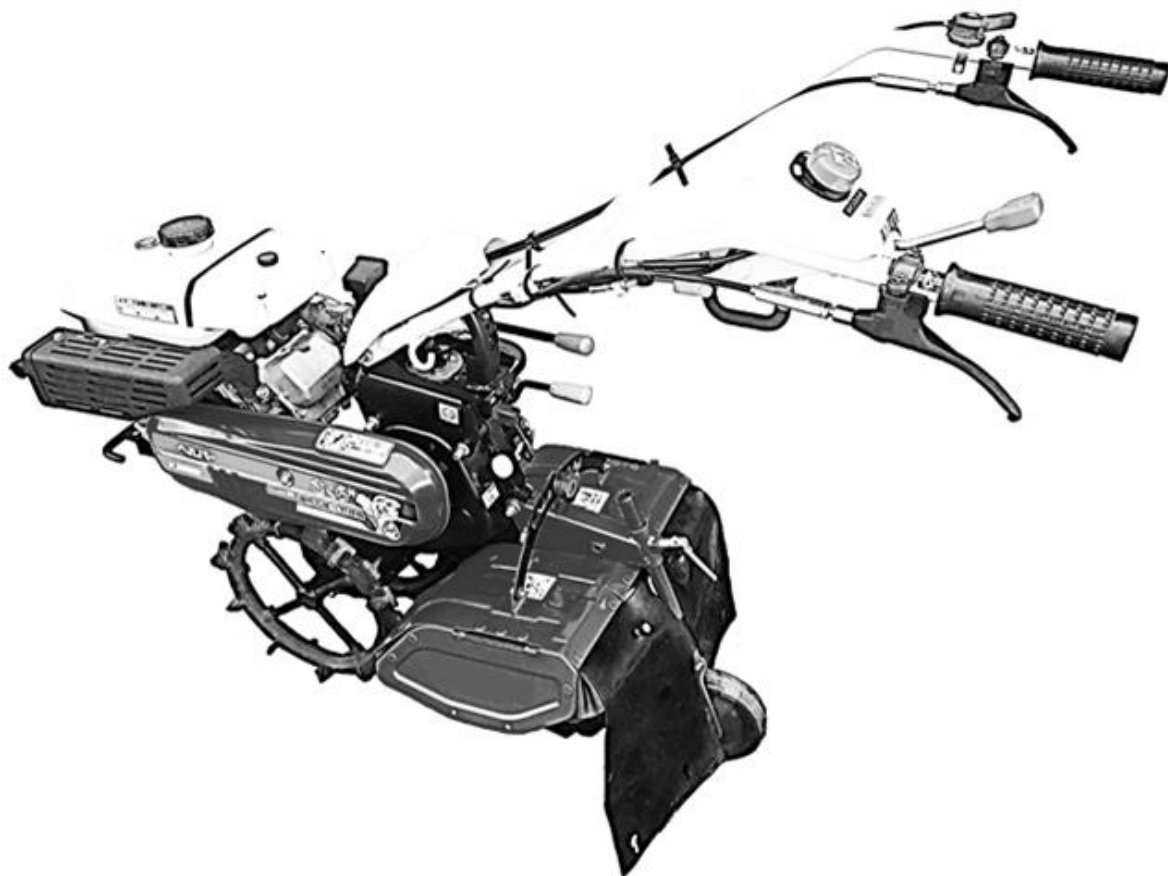


ヘルパー管理機

取扱説明書

K552-S -K



当製品を安全に、正しくお使いいただくために必ず本取扱説明書をお読みください。

お読みになった後も必ず製品に近接して保存してください。



関東農機株式会社

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために、操作装置のシンボルマークが使用されています。
シンボルマークの意味は下記のとおりですのでよく理解して戴き誤操作のないようにご注意ください。



エンジン停止



主クラッチレバー「入」



ガソリン燃料



チョークレバー



主クラッチレバー「切」

専門用語の説明

O

燃料コック [開]

C

燃料コック [閉]

本製品の使用目的について

本製品は、農業用機械ですので農作業以外では使用しないでください。
使用目的以外の作業、また夜間作業や改造はしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。
(詳細は保証書をご覧ください。)

仕様について

この取扱説明書では、仕様の異なる製品を下記のように表示していますので、お買上げの製品の仕様をお確かめのうえ、お間違いないようお願いいたします。
なお、説明は【K552-S仕様】を基本とし、【K552-S仕様】と取扱いが異なる場合はそのつど追加説明してあります。従って、機種及び仕様区分によっては付いてない装備の説明もあります。

- 正逆ロータリ仕様……S仕様
- 高低ロータリ仕様……K仕様

はじめに

このたびは本製品をお買上げいただきましてありがとうございました。

この取扱説明書は本製品の正しい取扱方法、簡単な点検及び手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいて十分理解され、お買上げの製品が優れた性能を発揮し、かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。

また、お読みになった後も製品に近接して保管し、分からないことがあったときには取出してお読みください。

なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行うことがあります。

その際には、お買上げの製品とこの説明書が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた  の表示がある警告ラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。

なお、警告ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買上げの販売店に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。

■ 注意表示について

本取扱説明書では、特に重要と考えられる取り扱い上の注意事項について次のように表示しています。



危険

注意事項を守らないと、死亡又は重傷を負うことになるものを示します。



警告

注意事項を守らないと、死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。



注意

注意事項を守らないと、けがを負うおそれがあるものを示します。

重要

注意事項を守らないと、機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。

補足

その他、使用上役立つ補足説明を示します。

目次

▲ 安全に作業するために	
・運転前の注意事項	! 1
・移動、作業時の注意事項	! 2
・作業が終わったときの注意事項	! 4
・安全に作業するための表示ラベル	! 6

サービスと保障について	
・アフターサービスについて	7
・補修用部品の供給年限について	7

各部の名称と装置の取扱い	
・主クラッチレバー	8
・ハンドル上下レバー	8
・燃料タンク・燃料キャップ	8
・マフラ	8
・メインスイッチ	8
・ハンドル回動レバー	8
・ロータリクラッチレバー	9
・スロットルレバー	9
・後進けん制ボルト	9
・主変速レバー	9
・ロータリ変速レバー	9
・尾輪	10
・リコイルスタータ	10
・エアクリーナ	10
・チョークレバー	10
・燃料コック	10

納入時の作業前点検	
・給油の点検	11
・各部の点検	12

運転のしかた	
・新車時の扱い	13
・ならし運転	13
・運転前点検	13
・運転前の日常点検	13
・エンジンの始動と停止のしかた	13
・始動のしかた	13
・停止のしかた	14
・発進のしかた	15
・上手な作業のしかた	15
・エアクリーナの調節	16
・ハンドル高さの調節	16
・ハンドルの回動	16
・耕深調節のしかた	17
・ロータリカバー（ハンドル正位置） 正転作業の設定要領	17
・ロータリカバー（ハンドル正位置） 逆転作業の設定要領（S仕様のみ）	18
・ロータリカバー（ハンドル逆位置） 正転作業の設定要領	18
・輪距の調節のしかた	18

管理機の簡単な手入れと処置	
・廃棄物の処理について	19
・洗車時の注意	19
・日常点検	19
前日の異常箇所	19
機械の状態確認	19
燃料の給油	19
エンジンオイルの点検	20
ミッションオイルの点検	20
エアクリーナの点検	20
各ケーブルへの注油	20
その他の点検	20
安全に作業するために	20
・時間に応じた点検・整備	21
エンジンオイルの交換	21
ミッションオイルの交換	21
エアクリーナエレメントの清掃と オイル交換	22
燃料チューブの交換	22
燃料フィルタ・タンクの清掃	22
点火プラグの調節・清掃・交換	23
・必要に応じた点検・整備	23
ファンカバーの清掃	23
主クラッチケーブルの調節	23
ハンドル上下レバーの調節	24
スロットルレバーの調節	24
ロータリケーブルの調整	24
耕うん爪の取付かた	25
・使用後の手入れ	26
エンジン始動不良を防ぐために	26
長期格納時の手入れ	26
燃料の抜き取り	26
・定期点検一覧表	27
・給油一覧	27

管理機を運搬するとき	
・自動車（トラック）への積み込み、運搬	28

付表	
・主要諸元	29
・走行速度一覧	29
・標準付属品	30
・主な消耗部品一覧	30

トラブルと対処	
・エンジンが始動しないとき	31
・エンジン回転数が上がらない、不安定、 出力が不足するとき	31
・エンジンが振れる、異音が発生するとき	31

！ 安全に作業するために

本機をご使用になる前に、必ず「取扱説明書」をよく読み、理解した上で安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため、ぜひ守っていただきたい注意事項は下記の通りですが、これ以外にも、本文の中で**！危険****！警告****！注意****重要****補足**としてそのつど取り上げています。

■運転前の注意事項

1. 運転する前に

- 1) 機械を動かす前に、取扱説明書及び機械に貼ってある**！**表示ラベルをよく読み、理解した上で運転してください。
- 2) 機械の運転操作、特に主クラッチの[切]はすばやくできるよう、よく練習し、じゅうぶんに慣れてから作業してください。



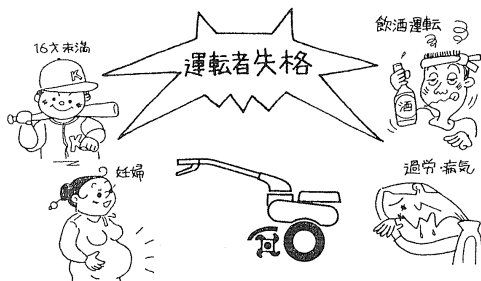
警告

※守らないと死亡事故や重大な障害、機械の破損を招く恐れがあります。

2. 運転してはいけない人

次の項目に該当する場合は機械を使用しないでください。

- 1) 本書及びラベルの内容が理解できない人
- 2) 視力不足などのため表示内容が読めない人
- 3) 飲酒時や体調の悪い時、または妊娠中の人
- 4) 16歳未満の人
- 5) ハンドルを操縦する体力に自信のない人



警告

※守らないと死亡事故や重大な障害、機械の破損を招く恐れがあります。

3. 使用する人の服装は

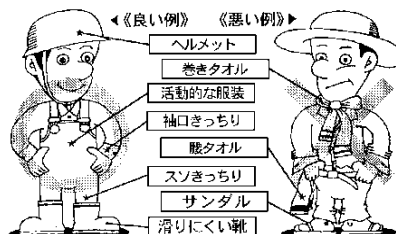
回転物や操縦装置に引っかかり、事故の原因になる服装で使用しないでください。

[良い例]

- 1) ヘルメットの着用
- 2) 活動的な服装
- 3) 袖口がきっちりしている
- 4) 裾がきっちりしている
- 5) 滑りにくい靴

[悪い例]

- 1) 巻きタオル
- 2) 腰タオル
- 3) サンドル

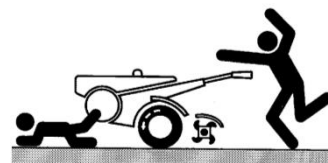


警告

※守らないと死亡事故や重大な障害を招く恐れがあります。

4. 作業時は周囲への注意

- 1) 子供、ペットを近づけないでください。
- 2) 人を近くに寄せないでください。
- 3) 共同作業者がいる時は、互いに注意してください。



警告

※守らないと死亡事故や重大な障害を招く恐れがあります。

5. 他人に機械を貸すときは

事前に運転のしかたを教え、取扱説明書を必ず読んでもらってください。本書及びラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させないでください。



警告

※守らないと死亡事故や重大な障害、機械の破損を招く恐れがあります。

6. 給油・注油するときは(火気厳禁)

- 1) 燃料の補給・各部への注油をする際は必ずエンジンを停止し、規定量以上入れないでください。
- 2) エンジン回転中やエンジンが熱い間は火災のおそれがあるので給油はしないでください。
- 3) 煙草を吸ったり火気を近づけないでください。

安全に作業するために

- 4)給油口の赤色ゲージ以上に燃料を入れないでください。
- 5)燃料補給後、給油キャップはもれないようにしっかり締めてください。
- 6)こぼれた燃料はふき取ってください。

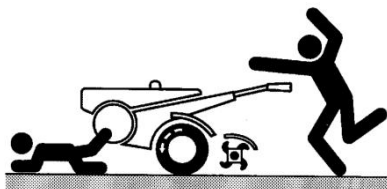


警告

※守らないと燃料に引火し火災を引き起こす恐れがあります。

7.エンジンを始動するときは

- 1)必ず本機の主クラッチレバーを[切]にし、主変速レバー及びロータリ変速レバーを[中立]にして、付近に人(特に子供)を近づけないでください。もし主クラッチや変速が入っていると車体や爪軸が急に動いて事故になるおそれがあります。
- 2)リコイルスタータを引っ張る方向に人がいないか、突起物・障害物がないか確かめてから始動してください。傷害事故のおそれがあります。
- 3)リコイルスタータを引張る方向に人がいないか、突起物・障害物がないか確かめてから始動してください。



警告

※守らないと事故を引き起こしたり傷害を招く恐れがあります。

8.換気が不じゅうぶんな所では

- 1)換気が不じゅうぶんな所では、暖機運転や作業はしないでください。排気ガスにより一酸化炭素中毒のおそれがあります。
- 2)ハウス内では排気ガスが充満しないように、じゅうぶんに換気を行なってください。排気ガスによる中毒を起こし、死亡事故にいたるおそれがあります。



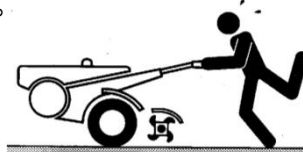
警告

※排気ガス中毒を起こし、死亡することがあります。

■移動、作業時の注意事項

1.発進するときは

- 1)速い速度での走行はじゅうぶん注意してください。
- 2)車速の最低速で主クラッチレバーの[入]はゆっくり、[切]はすばやくの操作を習熟した上で使用してください。
- 3)小走りになるようなスピードを出したり、急発進、急旋回はしないでください。転倒などのおそれがあります。



- 4)後進の発進時は、ハンドルが持上がりやすいので、エンジンの回転を下げ、しっかりハンドルを押さえながらゆっくり主クラッチを入れてください。

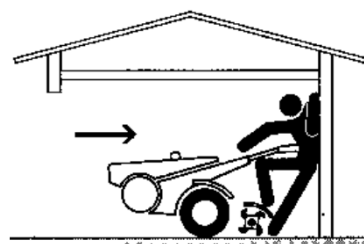


警告

※守らないと事故を引き起こしたり傷害を招く恐れがあります。

2.ハウス、車庫等での移動は

- 1)後方の壁、支柱、天井など障害物にはさまれるおそれがあるのでエンジン回転を下げて後進してください。
- 2)屋根の低いハウス内や車の荷台では、エンジンを停止して手で引き出してください。



警告

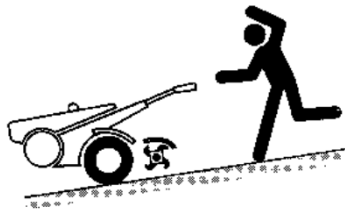
※守らないと死亡事故や重大な傷害、機械の破損を招く恐れがあります。

3.坂道を移動するときは

- 1)坂道では変速を[前進1速]又は[後進]で走行してください。
- 2)坂道、ほ場の出入り、あぜの乗越えなどの途中で主クラッチを[切]ったり、主変速を[中立]にすると、機体が思わぬ方向に進み危険です。
- 3)変速操作は、機械が平坦な場所以外では行なわないでください。落下や転倒のおそれがあります。

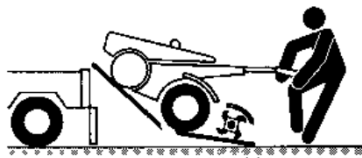
! 安全に作業するために

- 4)坂道や凹凸、カーブの多い路上で高速運転すると、転倒したりして危険ですから必ず低速運転してください。

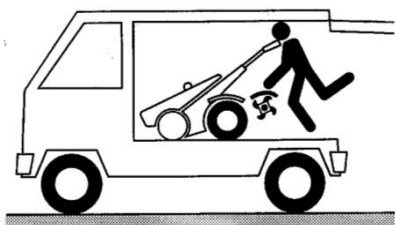


! 警告
※守らないと事故を引き起こしたり
傷害を招く恐れがあります。

- 4.機械の運搬・積み降ろしをするときは
- 1)積み込み・積み降ろしは、平たんで交通の邪魔にならない安全な場所で行なってください。
 - 2)アユミ板はすべり止めのついた、機体重量に耐えるもので、トラックの荷台の高さ1に対しアユミ板の長さ4以上のものを使用し、確実に固定してください。
 - 3)足元に注意し、車速は最低速で、上りは[前進1速]下りは[後進]で行ない、途中で主クラッチを切ったり、変速操作をしないでください。落下・転倒のおそれがあります。



- 4)車などで運搬するときは、荷台に天井がある車を使用すると天井に首や体をはさまれるおそれがありますので、必ず荷台に天井がない車を使用してください。



- 5)燃料コックレバーを必ず閉にし、給油キャップはもれないようしっかり締めてください。燃料もれが発生し、火災や爆発のおそれがあります。
- 6)機体の固定は前部バンパ・ハンドルフックの2箇所を使ってロープ掛けを行ない、確実に床に固定してください。

! 警告
※守らないと事故を引き起こしたり
傷害を招く恐れがあります。

- 5.耕うん作業するときは

- 1)いつでも主クラッチが[切]れる姿勢で運転してください。爪軸(ロータリ)作業開始時や作業中、機体が思わぬ方向に飛出し転倒や人身事故のおそれがあります。

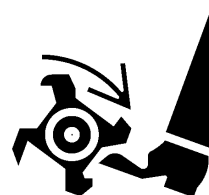


- 2)作業前に、ほ場の状態をよく確認して、石、材木、針金、空カン、空ビンなどを取除いてください。
- 3)作業前、作業後には機械の整備・点検を行なってください。特にエンジン本体、マフラ周辺、配線部にワラくずなどがたまっていると、火災の原因になります。
- 4)周辺の枯れ草やたい積ワラなどは作業前に取除くか移動させてください。機械のマフラが接触すると、発火するおそれがあります。
- 5)ほ場の中や周囲にある支柱、樹木や段差などは、作業前に位置を確認し、後進時にはさまれたり、転倒・転落しないよう安全な距離を保って、近づかないよう作業してください。
- 6)ハウスや小屋の中、果樹園など障害物がある場所では、周囲をよく確認しながら作業してください。特に後進、旋回するときは、エンジン回転を下げ、ハンドルをしっかり押えて行なってください。
- 7)長いワラ・草など作業に支障のあるものは、作業前に取除いてください。機体が思わぬ方向に飛出し、転倒などのおそれがあります。

! 警告
※守らないと事故を引き起こしたり
傷害を招く恐れがあります。

- 6.回転している爪に注意して

- 1)足元及び周囲に十分注意しないと回転する爪に巻込まれるおそれがあります。

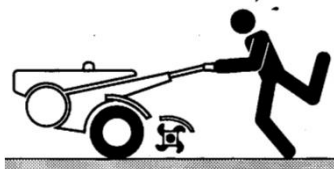


! 警告
※守らないと機械に巻き込まれたりして
重傷を負う恐れがあります。

安全に作業するために

7. ほ場が硬いときは

- 1) 土が硬かったり石の多い場所ではロータリーをゆっくりと地面に下ろしてください。回転する爪の勢いで機械が思わぬ方向に飛び出す(ダッシュする)ことがあります。

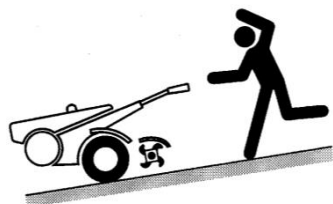


警告

※守らないと事故を引き起こしたり
傷害を招く恐れがあります。

8. 機械から離れるときは

- 1) エンジンは必ず停止させ、平たんで安定した場所に停車してください。移動・落下するおそれがあります。(やむなく傾斜地に止めるときは車止めをしてください)
- 2) 周囲に草・ワラなど燃えやすいものがある場所に止めないでください。火災のおそれがあります。



警告

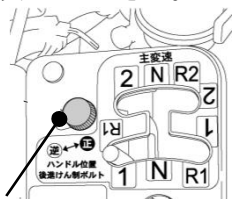
※守らないと事故を引き起こしたり
傷害を招く恐れがあります。

9. ハンドルを回動するときは

- 1) 高速で後進すると機体が運転者に衝突し危険なため、ハンドル位置を逆転したときは必ず後進けん制ボルトの位置を切替えてください。ハンドル位置を正位置に戻したときは、後進けん制ボルトの位置も元に戻してください。



後進けん制ボルト



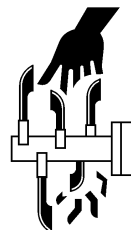
警告

※守らないと事故を引き起こしたり
傷害を招く恐れがあります。

■ 作業が終わったときの注意事項

1. 掃除をするときは

- 1) 車軸(ロータ)・爪軸(ロータリ)等に巻付いた草、ワラ、泥土等を取除くときは、巻込まれるおそれがあるので、必ずエンジンを停止してください。

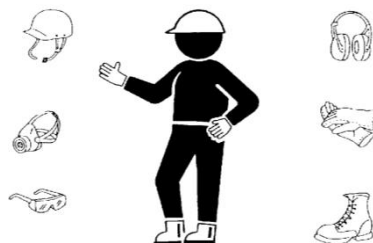


警告

※守らないと事故を引き起こしたり
傷害を招く恐れがあります。

2. 点検・整備をするときの服装は

- 1) 点検整備にはヘルメット、安全靴と安全な服装を着用してください。作業内容によっては保護めがね、防塵マスク、防音具、保護手袋などの保護具を着用してください。各保護具は使用前に機能を確認してください。



警告

※守らないと事故を引き起こしたり
傷害を招く恐れがあります。

3. 点検・整備をするときは

- 1) 点検、整備、アタッチメントの脱着などは、機械が転倒しない平たんな所に機械を安定させて、エンジンを止め、高温部が冷めてから行なってください。



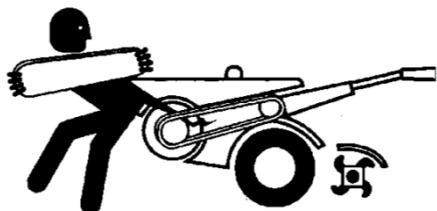
警告

※守らないと事故を引き起こしたり
やけどを恐れがあります。

安全に作業するために

4.カバー類を取り外したら

- 1)ベルトカバーなどの防護カバーを取り外すときは、巻き込まれるおそれがあるので、必ずエンジンを停止してください。
- 2)取外したカバー類は元通り組付けてください。



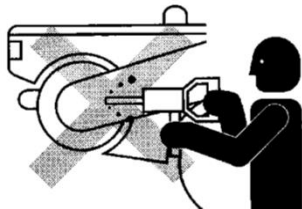
 **警告**
※守らないと機械に巻き込まれたりして重傷を負う恐れがあります。

5.タイヤの修理・交換は

- 1)タイヤ・ホイールなどの交換・修理は、必ず購入先にご相談ください。

6.機械の改造は禁止です

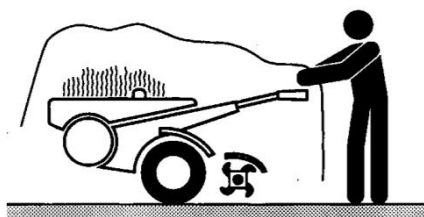
- 1)純正部品や指定アタッチメント以外の部品を取付けないでください。
- 2)機械を改造しないでください。改造すると機能に影響を及ぼすばかりか人身事故にもつながるおそれがあります。



 **警告**
※守らないと死亡事故や重大な傷害、機械の破損を招く恐れがあります。

7.格納するときは

- 1)機体に保管用シートを掛ける場合は、マフラーやエンジンが充分冷えてから掛けてください。

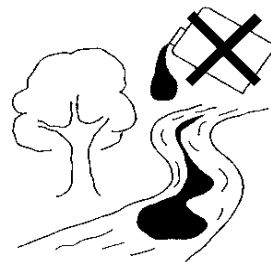


- 2)火災予防のため、ワラ・草等可燃物のある場所での保管はしないでください。

 **注意**
※守らないと火災事故を引き起こす恐れがあります。

8.廃棄物の処理は

- 1)廃棄物をみだりに捨てたり、焼却すると、環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。
- 2)機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。
- 3)地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。
- 4)廃油、ゴム類、その他の有害物を廃棄、又は焼却するときは、購入先、又は産業廃棄物処理業者等に相談して、所定の規則に従って処理してください。



 **注意**
※守らないと汚染環境につながり、法令により処罰されることがあります。

9.夜間作業は禁止です

- 1)本機には夜間作業灯を装備しておりません。夜間作業を行わないでください。



 **注意**
※守らないと事故を引き起こしたり、傷害を負う恐れがあります。

安全に作業するために

■安全に作業するための表示ラベル

1.表示ラベルと貼付け位置

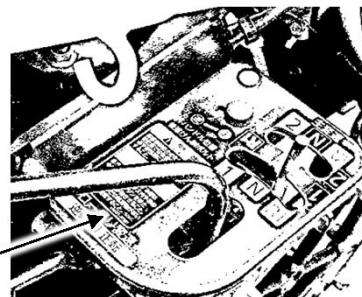
① 品番:220740000706000

S仕様



① 品番:220750000706000

K仕様

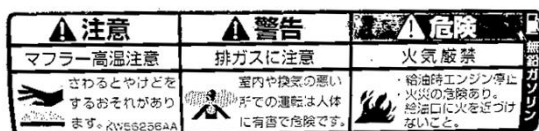


② 品番:236100000451000

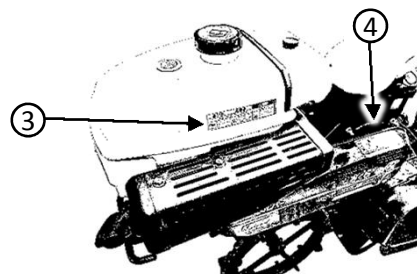
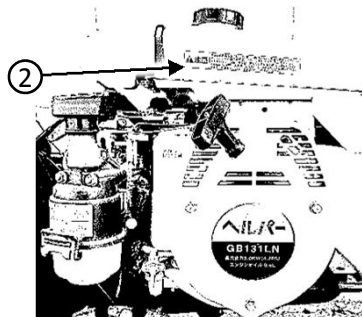
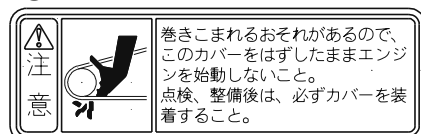
 **注意**

- 取扱説明書をよく読んで、正しい取扱いをし、安全な作業をすること。
- エンジンを始動する時は、主クラッチレバーを「切」にすること。
- 積み降ろし、は場の出入り、坂道などでは遅い車速で運転すること。
- 作業中は、周囲に人を近づけないこと。後進時は後方を確認すること。
- 点検、整備をする時は、必ずエンジンを停止すること。

③ 取扱注意ラベル(エンジンアッシュ)



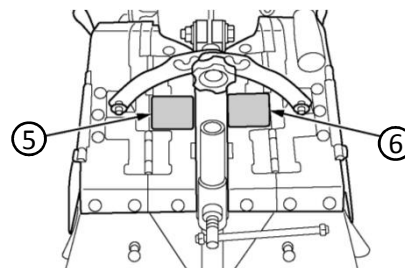
④ 品番:236100000452002



⑤ 品番:220121020832000



⑥ 品番:220121020831000



2.表示ラベルの取扱い

1.ラベルは、いつでもきれいにし、傷つけないようにしてください。

もしラベルが汚れている場合は、石鹼水で洗い、柔らかい布で拭いてください。

2.高圧洗浄機で洗車すると、高圧水によりラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接ラベルにかけないでください。

3.破損や紛失したラベルは、製品購入先に注文し、新しいラベルに貼り替えてください。

4.新しいラベルを貼る場合は、貼り付け面の汚れを完全に拭取り、乾いた後、元の位置に貼ってください。

5.ラベルが貼り付けられている部品を新部品と交換するときは、ラベルも同時に交換してください。

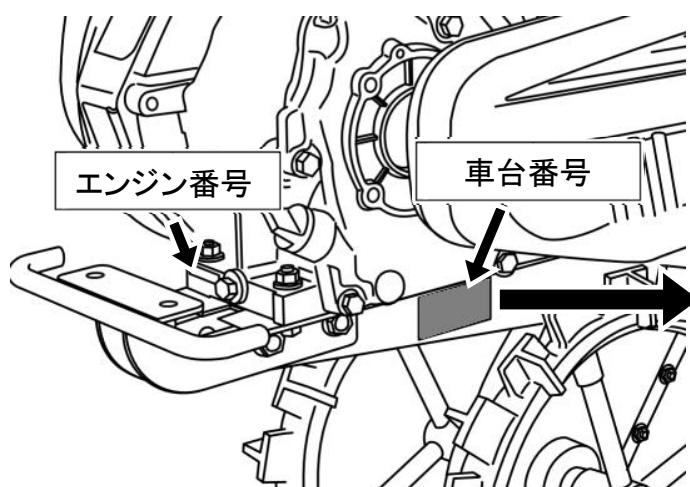
サービスと保証について

この製品には、保証書が添付してありますので、ご使用前によくご覧ください。

■アフターサービスについて

ご使用中の故障やご不審な点及びサービスについてのご用命は、お買上げの販売店又は直接当社にお気軽にご相談ください。その際、次の事項を併せてご連絡ください。

- (1) 型式名
- (2) 車台番号(製造番号)
- (3) エンジン番号
- (4) 故障内容(できるだけ詳しく)
- (5) どのような作業をしていましたか
- (6) どのくらい使用しましたか(アール、又は時間)



農業機械の種類		農用トラクター（歩行型）
型 式 名		K552
区 分		
搭 載	型 式 名	GB131LN
機 関	連続定格出力	2.3kW (3.1PS) / 1800rpm
製 造 番 号		
製造元：関東農機株式会社		
MADE IN JAPAN		



警告

機械の改造はしないでください。改造すると機能に影響を及ぼすばかりか、人身事故につながる恐れもあります。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる使用を行った場合は、メーカー保証の対象外になりますのでご注意ください。

■補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限(期限)は製造打ち切後9年といたします。ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

各部の名称と装置の取扱い

■主クラッチレバー



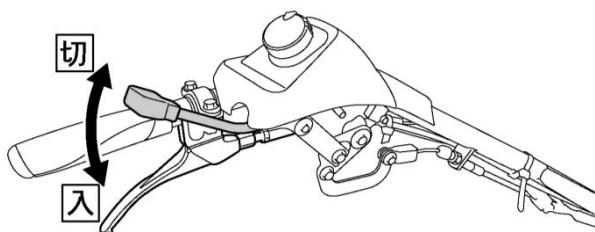
警告

※傾斜地や後進するときなどは、ハンドルが上がり危険な場合がありますので、主クラッチレバーをゆっくり操作してください。

※狭い場所や後進の運転についてはエンジンの回転を低速にし、後方や上方など周りの安全を確かめ、ゆっくりと主クラッチレバーを操作してください。

エンジンからの動力を断続します。

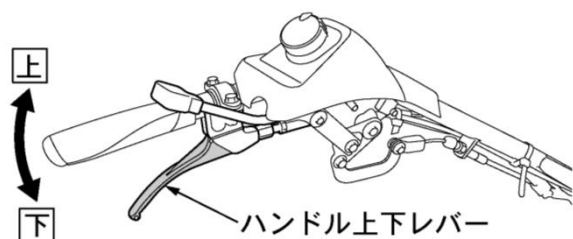
- 1.レバーを押し下げるとクラッチが[入]になります。
- 2.レバーを押し上げるとクラッチが[切]になります。



■ハンドル上下レバー

ハンドルの高さは5段の調節ができます。

- 1.ハンドル上下レバーを握るとハンドルが上下に動きます。
- 2.ハンドル上下レバーを離すと固定されます。(このときハンドルが固定されていることを確認してください。)



■燃料タンク・燃料キャップ

- 1.燃料タンクの下限まで液面がきたら燃料を補給してください。
- 2.燃料キャップから自動車用レギュラーガソリンを補給します。(規定容量3.0L)

補足

※給油口の赤色ゲージ以上に燃料を入れな
いください。

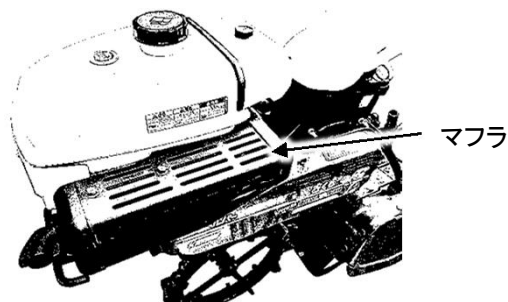


■マフラ



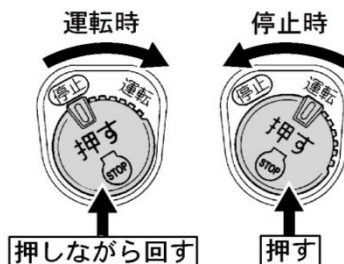
警告

※マフラに手でふれないでください。
やけどをするおそれがあります。



■メインスイッチ

エンジンの運転・停止に用います。



補足

※非常時にメイン
スイッチを押して
ください。
エンジンが停止
します。

スイッチを押し
ながら[運転]
位置に回すと
始動が可能です。

スイッチを押すと左に
回って[停止]位置に
戻り、エンジンが停止
します。

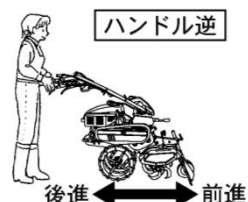
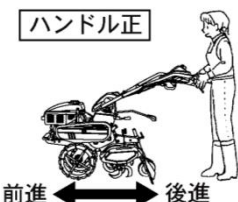
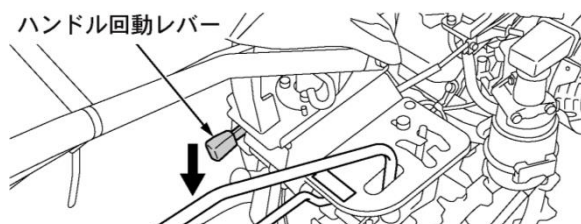
■ハンドル回動レバー



警告

※エンジンを必ず停止し、平たんな場所に
立て、安定させて行ってください。

※各レバーが正常に動くか確認してください。
ハンドル回動レバーを矢印の方向へ操作すると
ハンドルが正位置で5箇所、逆位置で5箇所の
調節ができます。

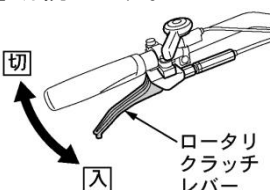


各部の名称と装置の取扱い

■ロータリクラッチレバー

ロータリに伝わる動力を断続します。

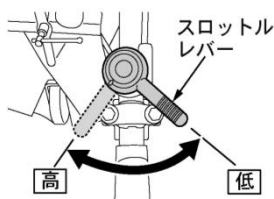
- 1.レバーを握るとロータリが[切]になります。
- 2.レバーを離すとロータリが[入]になります。



■スロットルレバー

エンジンの回転を調節します。

- 1.[高]の方向に回すと回転が上がります。
- 2.[低]の方向に回すと回転が下がります。



■後進けん制ボルト



警告

※ハンドルを逆位置にしたときは、必ず後進けん制ボルトを[逆]位置に切り替えてください。

※ハンドルを正位置に戻したときは、必ず後進けん制ボルトを[正]位置に切り替えてください。



■主変速レバー



警告

※エンジンを始動する前に、必ずレバーを[中立]にしてください。

※変速操作は主クラッチを[切]ってから行ってください。

※走行中は変速しないでください。

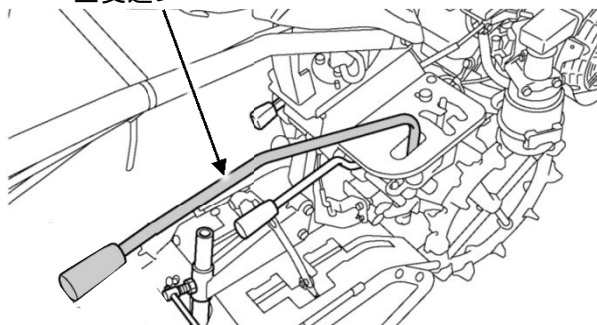
1.変速は

[ハンドル正位置]: 前進2段・後進2段

[ハンドル逆位置]: 前進2段・後進1段

2.[N](中立)位置で、レバーの根元を持ち上げるとレバーを回動できます。

主変速レバー



■ロータリ変速レバー



警告

※エンジンを始動する前に、必ずレバーを[N](中立)にしてください

※変速操作は主クラッチを[切]ってから行ってください。

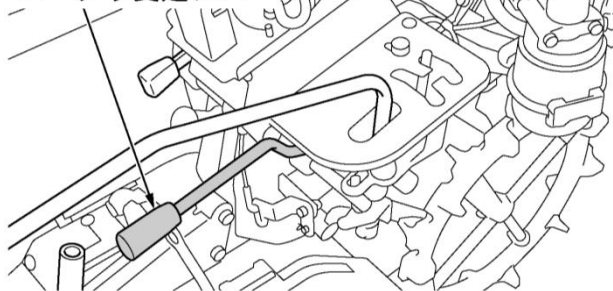
※走行中は変速しないでください。

※後進時の巻き込まれ事故防止のため、けん制装置を外さないでください。

[S仕様]: ロータリ回転の[正転]・[逆転]の切り替えができます。

[K仕様]: ロータリ正転の[高]・[低]の切り替えができます。

ロータリ変速レバー



補足

変速の案内板の表示位置に合わせて切り替えてください。

[S仕様]

・ロータリ変速レバーは[正転][逆転]の計2段に切り替えできます。

・ロータリ変速レバーが[正転][逆転]の位置ではけん制装置がはたらき、主変速レバーは[後進]に入りません。

[K仕様]

・ロータリ変速レバーは正転[高][低]の計2段に切り替えできます。

・ロータリ変速レバーが[高][低]の位置ではけん制装置がはたらき、主変速レバーは[後進]に入りません。

各部の名称と装置の取扱い

■ 尾輪

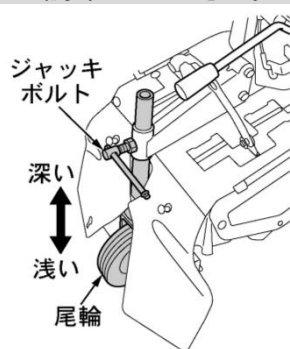


警告

※調節時は必ずエンジンを停止してください。
障害事故を引き起こすおそれがあります。
※耕深を深くしすぎると、思わぬ方向に機体が
飛び出し障害事故につながるおそれがあり
ます。

浅めの耕深から徐々に調節してください。

1. ジャッキボルトを
ゆるめ、尾輪の
位置を調整します。
2. 調整後は、ジャッキ
ボルトを確実に締め
てください。



■ リコイルスタータ



警告

※リコイルスタータを引っ張る方向に人が
いないか、突起物・障害物がないか確か
めてから始動してください。障害事故の
おそれがあります。

エンジン始動時に使用します。主クラッチレバー
を[切]・主変速レバーを[中立]・ロータリ変速
レバーを[中立]・メインスイッチを[運転]位置
にしてリコイルを引っ張ると始動します。

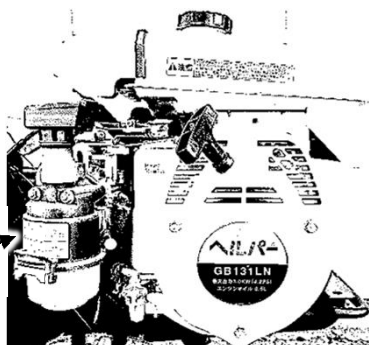
リコイルスタータハンドル



■ エアクリーナ

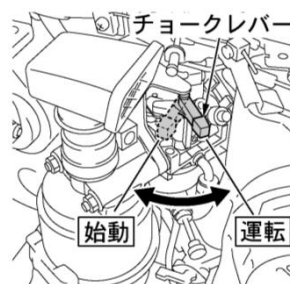
エンジンに清浄な空気を供給するための装置です。

エアクリーナ



■ チョークレバー

1. 始動時:[始動]位置
にレバーを切り替え
ます。
2. 始動後:[運転]位置
にレバーを切り替え
ます。



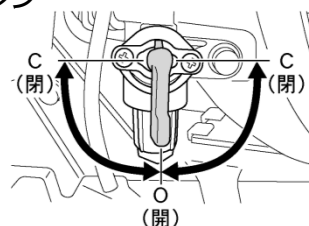
■ 燃料コック(レバー)

重要

※燃料コックレバーを開いた状態で、前に倒し
たり車両で運搬すると、エンジンの始動が
困難になる場合があります。

燃料タンクからエンジン
への燃料の[供給]

[停止]をします。
エンジン停止後必ず
燃料コックレバーを
閉めてください。



[C] (閉)・・・燃料停止
[O] (開)・・・燃料供給

納入時の作業前点検



注意

※点検をする時は平坦な場所に機械を安定させてから行ってください。
 ※点検はエンジンを停止させ、エンジンやマフラーがじゅうぶん冷えてから行なってください。

■給油の点検

重要

※各給油箇所には工場から出荷のときオイルが入れてありません。
 下表に従い給油してください。

給油箇所	種類	容量
エンジン(GB130)	エンジンオイル 10W-30	0.5 L
燃料タンク	自動車用無鉛レギュラーガソリン	3.0 L
ミッションケース	ミッションオイル #80又は#90	1.2 L
エアクリーナ	エンジンオイル 10W-30	オイルパンの規定量 (OIL LEVEL)

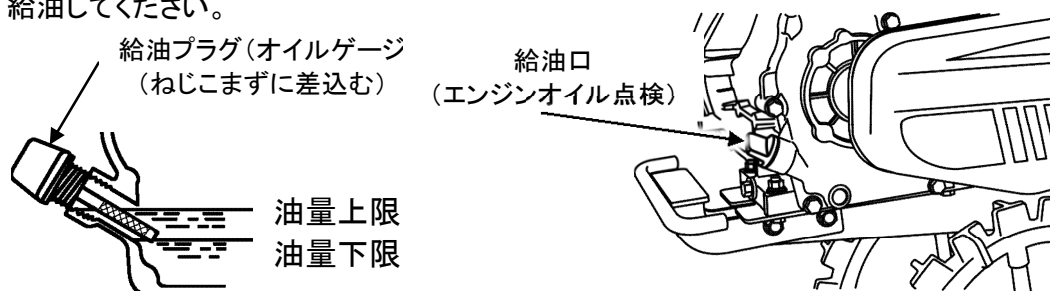


警告

※給油するときはエンジンを停止し、エンジンやマフラーがじゅうぶん冷えてから行ってください。
 ※火気厳禁。くわえ煙草での給油は絶対にしないでください。
 ※燃料がこぼれたときはきれいにふき取ってください。
 ※燃料は規定量(赤色ゲージ)以上入れないでください。
 ※給油後、燃料キャップはガソリンがもれないようにしっかり締めてください。
 ※上記の作業をおこたると、爆発・火災のおそれがあります。

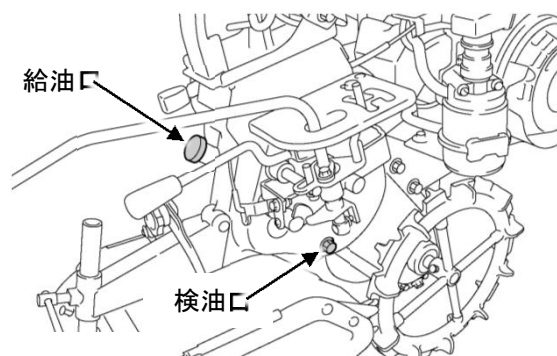
◆エンジンオイル

- ・エンジンを水平にして給油し、オイルゲージで規定量あるか確認します。
 - ・不足している場合、エンジンオイル10W-30を補充します。(ガソリンエンジン用)
 - ※オイルゲージはねじ込まずに使用します。
 - ※出荷時にオイルは抜取っておりますが、構造上抜ききれないオイルが内部に残存しています。
- 0.5L給油しようとする場合があるので、オイルゲージの規定容量を目安に給油してください。



◆ミッションオイル

- ・ケースのロータリ側の側面に設けてある、給油口よりミッションオイルを規定量給油してください。
- ・機体を水平にして検油口よりオイルが流れ出れば規定量です。
- ・不足している場合にはミッションオイルを入れます。



納入時の作業前点検

◆エアクリーナー

- ・エアクリーナーにオイルを入れます。(エンジンオイルSC級以上)
- ・エンジンオイルをOIL ↑ LEVELまで入れてください。
- ・エアクリーナーエレメントにゴミが付着していないか点検します。

◆燃料

- ・ロータリ爪接地状態で燃料を入れてください。
- ・自動車用レギュラーガソリンを補給します。
- ・タンク容量……約1. 2L(赤色ゲージ以下にします)

◆その他

- ・エンジン、ミッションなどから油漏れがないか点検します。
- ・各しゅう動部へエンジンオイルを注油します。
- ・各部の破損及びボルト・ナットのゆるみがないか点検します。

■各部の点検

◆主クラッチレバー

- ・クラッチの[入]・[切]が確実に行えるか点検します。
- ・不良の場合は調整・注油します。

◆主変速レバー

- ・変速が案内板の表示位置で確実にできるか点検します。
- ・ロータリ変速レバーが[正転(低速)][逆転(高速)]の位置のときに変速レバーが[後進]に入らないことを確認します。
- ・不良の場合は使用を控えご購入になった販売店までご連絡ください。

◆ロータリー変速レバー

- ・変速が案内板の表示位置で確実にできるか点検します。
- ・不良の場合は使用を控えご購入になった販売店までご連絡ください。

◆電気配線

- ・被覆が溶けたり破れたりしていないか、また配線がはさまれていないか点検します。

◆エンジン周辺部

- ・ファンカバーやマフラカバー内にゴミやワラクズの付着がないか点検します。

◆ガソリンもれ

- ・タンクや燃料パイプからガソリンもれがないか点検します。もれがある場合は、販売店に修理点検を依頼して使用しないで下さい。

◆エンジンスイッチ

- ・エンジンの始動、停止が確実にできるか確認します。エンジンが停止しない場合無理に停止しようとせずご購入 になった販売店までご連絡ください。

運転のしかた

新車時の扱い方

- ならし運転(最初の10時間まで)
この期間中は各部になじみをつけるため、エンジンを高速回転させたり、過酷な使用はさけ、無理をさせないようにしてください。

運転前点検

- 運転前の日常点検
故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。
日常点検は一日一回、運転前に欠かさず行ってください。(詳細は日常点検(19ページ)を参照)

エンジンの始動と停止のしかた

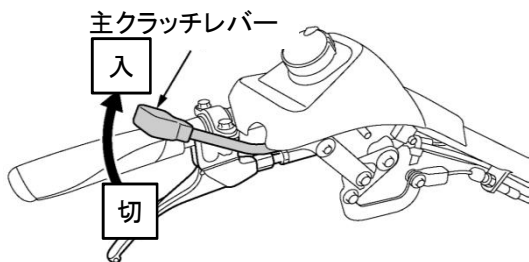
■始動のしかた



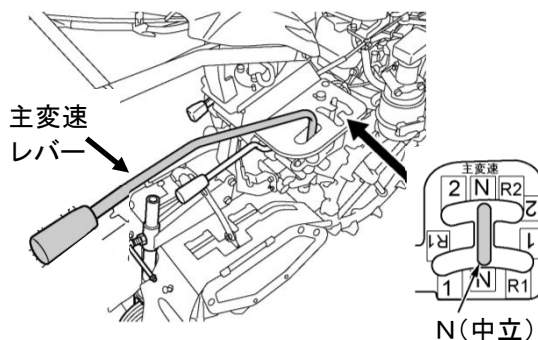
警告

- ※マフラの排気口方向に、燃えやすい物がないか確認してください。火災のおそれがあります。
- ※リコイルスタータを引っ張る方向に人がいないか突起物・障害物がないか確かめてから始動してください。傷害事故のおそれがあります。
- ※エンジンの運転中は、危険ですからマフラやそのほかの操作レバー以外の物には、触れないでください。ヤケドや傷害のおそれがあります。
- ※夜間作業はしないでください。
- ※エンジンを始動するときは、主クラッチレバーを必ず[切]にしてください。

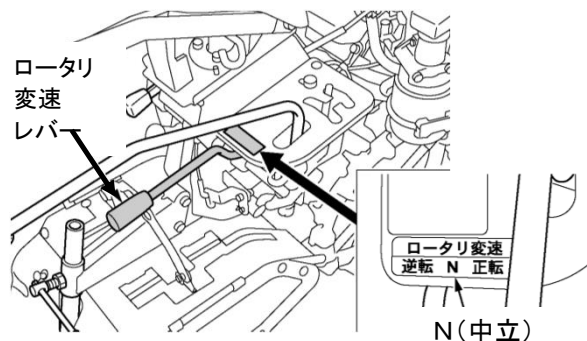
1. 主クラッチレバーを[切]にします。



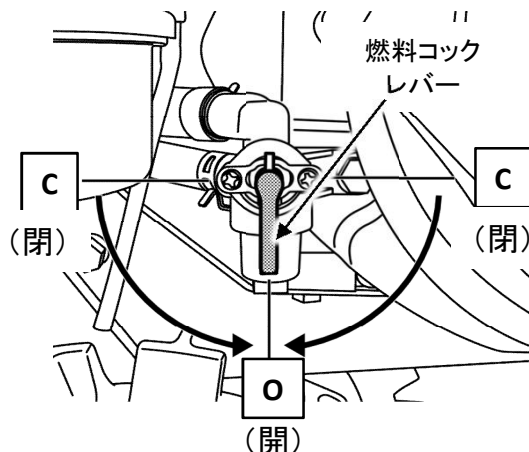
2. 主変速レバーを[N](中立)にします。



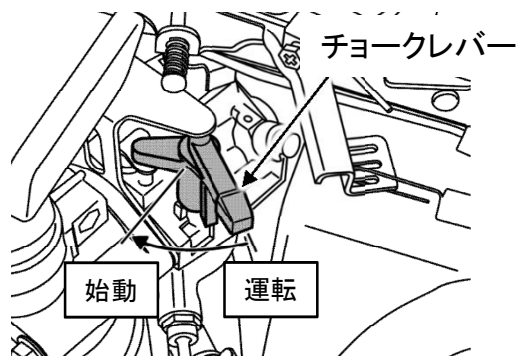
3. ロータリ変速レバーを[N](中立)にします。



4. 燃料コックをレバー[O](開)にします。

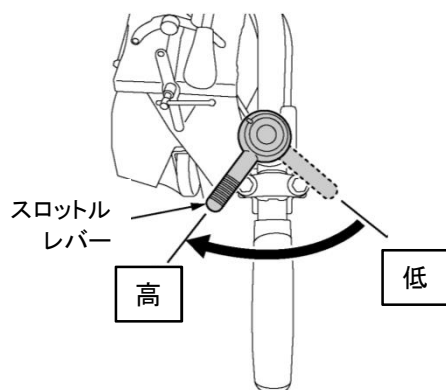


5. チョークレバーを[始動]位置に切り替えます。(但し、外気温15℃以下の場合)

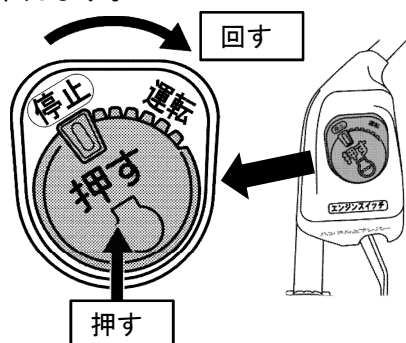


運転のしかた

6. スロットルレバーを[高]にします。



7. メインスイッチを押しながら[運転]位置まで回します。



8. リコイルスタータハンドルを握って、引っ張ります。エンジンが始動したら、リコイルスタータハンドルを静かに元に戻します。



9. チョークレバーを[閉]の位置でエンジン始動した場合は、エンジンの運転状態を確認しながら、チョークレバーを徐々に[開]の位置に戻します。

10. 2～3分暖機運転をしてから、作業を始めて下さい。

重要

※運転中はリコイルスタータを引かないでください。

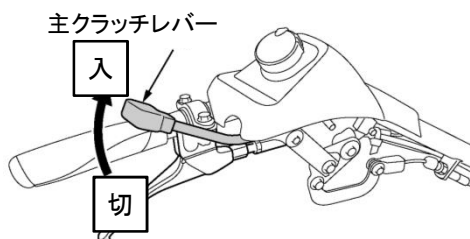
■停止のしかた



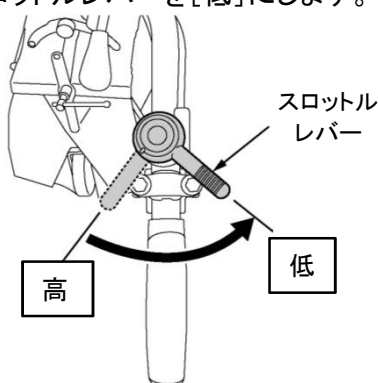
警告

※停止後はしばらくマフラーが熱くなっています。手を触れないでください。ヤケドのおそれがあります。

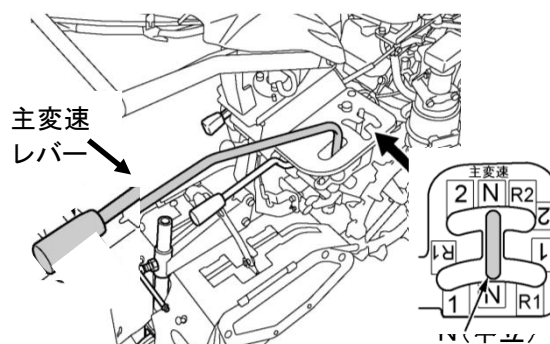
1. 主クラッチレバーを[切]にします。



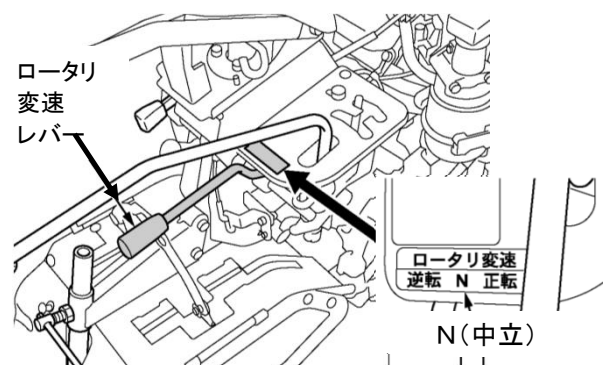
2. スロットルレバーを[低]にします。



3. 主変速レバーを[N] (中立)にします。

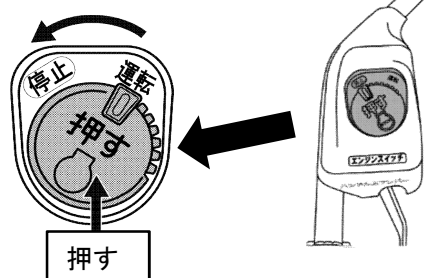


4. ロータリ変速レバーを[N] (中立)にします。

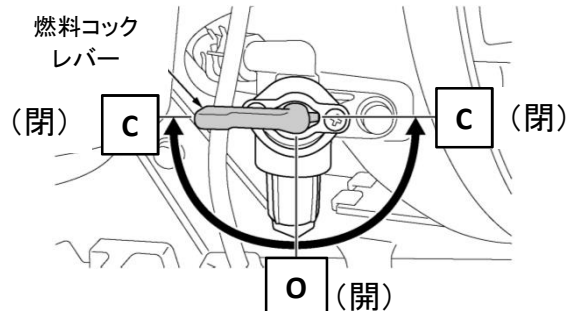


運転のしかた

5. メインスイッチを押すと左に回って[停止]位置に戻り、エンジンが停止します。



6. 燃料コックレバーを[C] (閉) にします。



重要

※燃料コックレバーを開いたままの状態
保管したり、車両で運搬したりすると、エン
ジン始動が困難となる場合があります。
また、クランクケース内へガソリンが流入
することもあります。

■ 発進のしかた



警告

※運転中は周囲に人を近づけないでください。

傷害事故のおそれがあります。

※傾斜地での運転や後進するときなどは、ハン
ドルが持ち上がり、体や首をはさまれるなど
のおそれがありますので、主クラッチをゆっく
り操作してください。

※狭い場所での運転や後進の運転については、
エンジンの回転を低速にし、後方や上方など
まわりの安全を確かめゆっくりと主クラッチ操
作をしてください。

※危険を感じたら、早めに主クラッチを切って
ください。

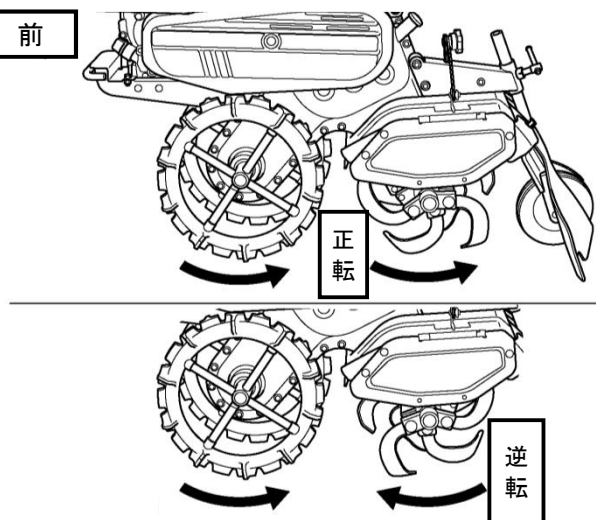
1. 主クラッチレバーが[切]の位置にあることを確
認した後、変速レバーを必要な変速位置にし
ます。
2. 主クラッチレバーを[入]にすると発進します。
3. スロットルレバーを操作して速度を調整します。

補足

※ロータリ回転方向は次図に示すように前進時
の車輪と同じ回転方向を正転、逆方向を逆転
と表記します。

(本図は[ハンドル正位置]を示します。)

前



重要

※正転、逆転では爪の向きが異なります。
誤った取付け方で作業を行うと機体を破
損する恐れがあります。



■ 上手な作業のしかた

次の操作手順を守り安全作業を心掛けて
ください。

1. 作業前の準備

各部の調節要領および作業ごとの設定要領
を参照して、作業目的に合わせた設定を行
なってください。

2. 耕うん作業手順

- 1) 主クラッチレバーを[切]位置にします。
- 2) ハンドル上下レバーを握り、作業しやすい
位置にハンドル高さを調節します。
- 3) 主変速レバー及び、ロータリ変速レバーを
作業に応じた位置に入れます。
- 4) 主クラッチレバーをゆっくり下げ[入]位置にし、
発進してください。
- 5) スロットルレバーを操作し、速度やロータリ
回転数を調節します。
- 6) 変速するときは必ず主クラッチレバーを
[切]位置にしてから行なってください。

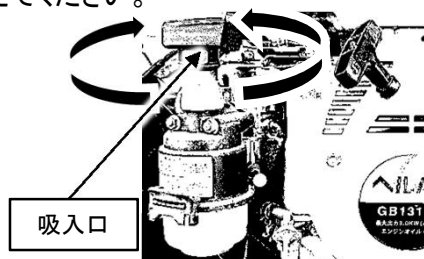
運転のしかた

3. 旋回手順

- 1) 主クラッチレバーを[切]位置にします。
- 2) スロットルレバーを[低]にします。
- 3) ロータリ変速レバーを[N](中立)位置にします。または、ロータリクラッチレバーを握ります。
- 4) “ハンドル正位置の時”
ハンドル上下レバーを握り、ハンドル位置を下げます。
“ハンドル逆位置の時”
ハンドル上下レバーを握り、ハンドル位置を上げます。
- 5) “ハンドル正位置の時”
ハンドルを持ち上げ、主クラッチレバーをゆっくり下げて[入]にし、旋回します。
“ハンドル逆位置の時”
ハンドルを押し下げ、主クラッチレバーをゆっくり下げて[入]にし、旋回します。
- 6) 旋回後、上記2. 耕うん作業手順の手順で耕うん作業を行ないます。

■エアクリーナの調節

エアクリーナの吸込口が回転します。
作業に応じ、チリやホコリの少ない方に吸込口の向きを変えてください。

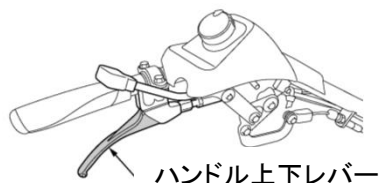


■ハンドル高さの調節



警告

※走行時・作業時は危険なため操作はしないでください。
※操作するときは必ず主クラッチを切り、周囲を確認すると共にゆっくり操作し、操作後はハンドルが確実に固定されているか確認してください。
高さは5段の調節ができます。



1. ハンドル上下レバーを握るとハンドルが上下に自由も動きます。
2. ハンドル上下レバーを離すと固定されます。この時ハンドルが固定されていることを確認してください。

■ハンドルの回動

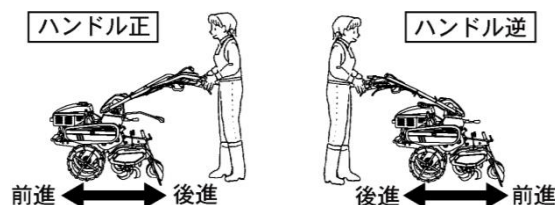


警告

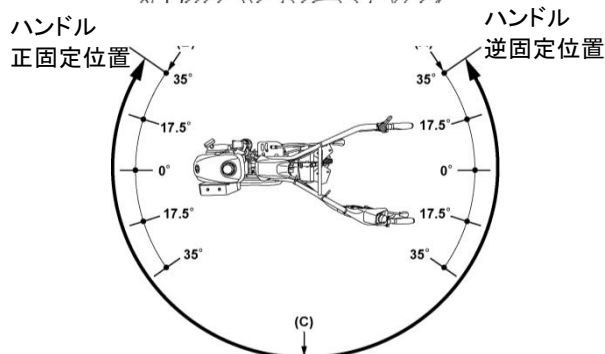
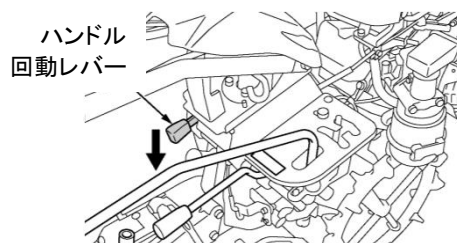
※エンジンを必ず停止し、平たんな場所に機械を安定させて行ってください。
※各レバーが正常に動くか確認してください。
※ハンドルを逆位置にした時は必ず後進けん制ボルトを“逆”位置に、正位置に戻した時は“正”位置にしてください。

重要

※回動するとき、ケーブル類がひっかからないようにゆっくり行ってください。
※ハンドルを正位置から逆位置に回動する時は時計方向に、逆位置から正位置に戻す時は反時計方向に回動してください。逆に回動すると機械が破損することがあります。

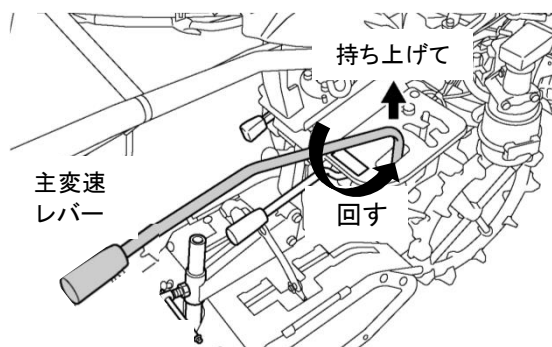


1. ハンドル回動レバーを矢印の方向へ操作するとハンドルが正位置で5箇所、逆位置で5箇所の調節ができます。



2. 主変速レバーを[N](中立)位置にし根元を持ち上げて、変更したい位置へ回転させてセットしてください。

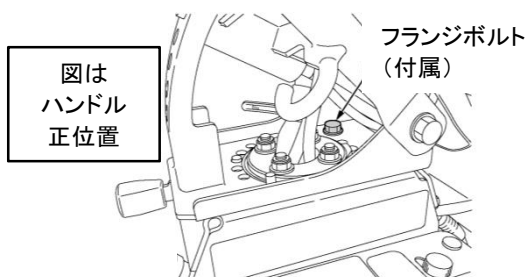
運転のしかた



3. ハンドルを正位置から逆位置に、もしくは逆位置から正位置に調節した際は、必ず後進けん制ボルトを切替えてください。
(詳細は後進けん制ボルト(9ページ)を参照)

補足

- ※ハンドル逆位置にすると、主変速レバーが外側に出ますので、作物に干渉する場合等は主変速レバーを[N]位置にし根元を持ち上げてレバーを中央に寄せる事ができます。
- ※ハンドル逆位置で、主変速レバーを中央に寄せた場合、変速はできませんので、変速する場合は、元の位置に戻してください。
- ※ハンドルのガタつきを抑えたい場合は、付属のフランジボルトでハンドル回動部を1箇所固定してください。
(フランジボルトは、確実に締めつけてください。)

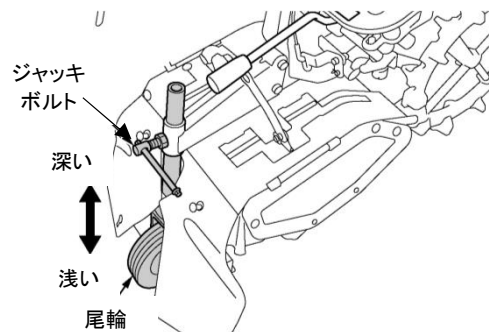


■耕深調節のしかた



警告

- ※調節時は必ずエンジンを停止してください。
傷害事故を引き起こすおそれがあります。
- ※耕深を深くしすぎると、思わぬ方向に機体が飛び出し傷害事故につながるおそれがあります。浅めの耕深から徐々に調節してください。
尾輪の高さを調整することで耕深調節ができます。
- 1. 機体を前傾させてエンジン側を接地してください。
- 2. ジャッキボルトをゆるめ尾輪を上下し、耕深を調節してください。
- 3. 耕深を浅くする場合は、尾輪を下げてください。
耕深を深くする場合は、尾輪を上げてください。



重要

- ※調整後、ジャッキボルトを確実に締付けてください。

■ロータリカバー(ハンドル正位置)正転作業の設定要領

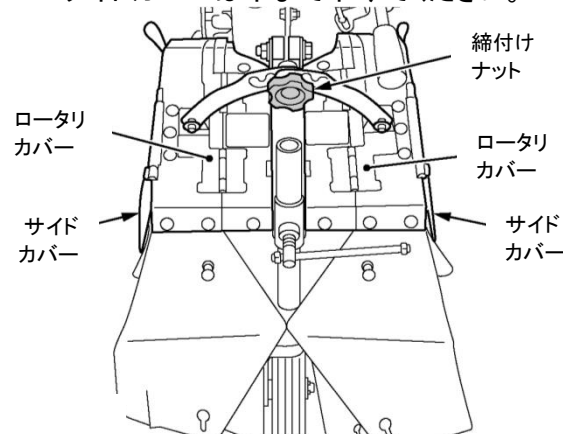


警告

- ※爪軸・カバー調節時は、エンジンを必ず停止してください。障害事故を引き起こすおそれがあります。

[主な作業: 中耕、倍土]

1. 爪軸を(ハンドル正位置)正転作業の向きに取付けてください。
(詳細は6. 耕うん爪の取付かた(25ページ)参照)
2. 締付けナットをゆるめてロータリカバーを水平まで下げます。次に締付けナットでじゅうぶんに固定してください。
3. サイドカバーは下まで下げてください。



4. ロータリは[正転]で作業を行ってください。

補足

- ※作業に合わせて適正な爪・爪軸を選定することでより良い作業ができます。

運転のしかた

■ロータリカバー(ハンドル正位置)逆転作業の設定要領(S仕様のみ)

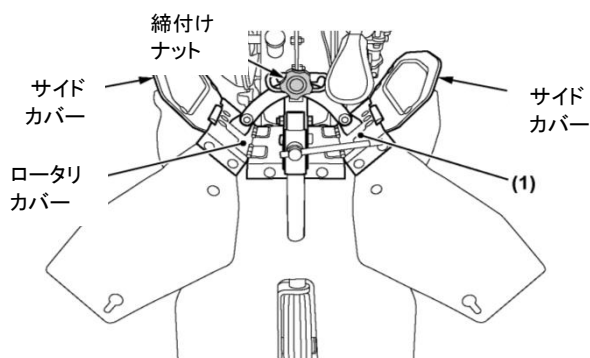


警告

※爪軸・カバー調節時は、エンジンを必ず停止してください。障害事故を引き起こすおそれがあります。

[主な作業:土揚]

1. 爪軸を(ハンドル正位置)逆転作業の向きに取付けてください。
(詳細は6.耕うん爪の取付けかた(25ページ)参照)
2. 締付けナットをゆるめてロータリカバーを用途に合わせた位置に調節し、締付けナットでじゅうぶんに固定してください。サイドカバーも用途に合わせて調節してください。



4. ロータリは[逆転]で作業を行ってください。

補足

※作業に合わせて適正な爪・爪軸を選定することでより良い作業ができます。

■ロータリカバー(ハンドル逆位置)正転作業の設定要領

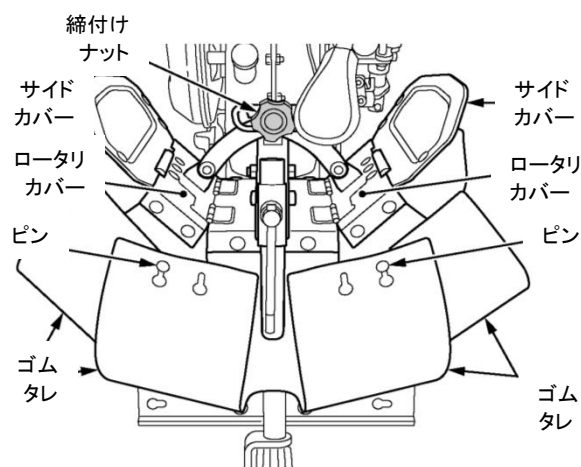


警告

※爪軸・カバー調節時は、エンジンを必ず停止してください。障害事故を引き起こすおそれがあります。

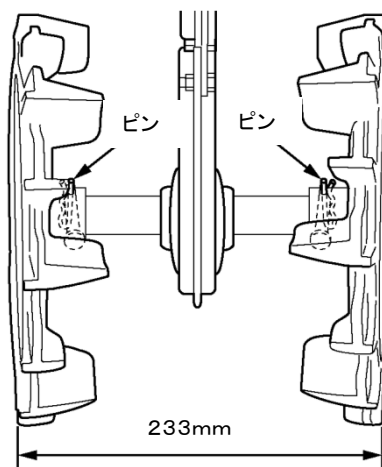
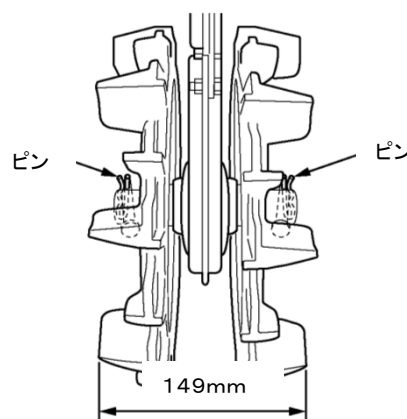
[主な作業:土揚]

1. 爪軸を(ハンドル逆位置)正転作業の向きに取付けてください。
(詳細は6.耕うん爪の取付けかた(26ページ)参照)
2. 締付けナットをゆるめてロータリカバーを用途に合わせた位置に調節し、締付けナットでじゅうぶんに固定してください。サイドカバーも用途に合わせて調節してください。
3. ゴムタレも下図のように上に巻き上げ、ピンに固定してください。



■輪距の調節のしかた

作業に合わせて輪距を調節してください。ピンを外し、車輪の左右を入れ替えることで調節できます。



管理機の簡単な手入れと処置



警告

給油及び点検整備するときは
※給排油・点検・調節・清掃は、エンジンを停止し、エンジンやマフラがじゅうぶんに冷えてから行なってください。
※平たんな場所に機械を安定させて行なってください。
※上記の作業をおこたると、障害事故のおそれがあります。

■廃棄物の処理について



警告

※廃棄物をみだりにすてたり、焼却すると、環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。
※廃棄物を処理するときは
1.機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。
2.地面へのたれ流しや河川、湖沼、海岸への投棄はしないでください。
3.廃油、ゴム類、その他の有害物を廃棄、又は焼却するときは、購入先、又は産業廃棄物処理業者等に相談して、所定の規則に従って処理してください。

■洗車時の注意



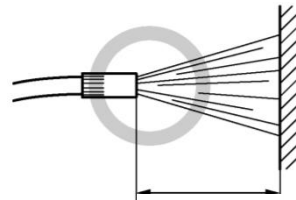
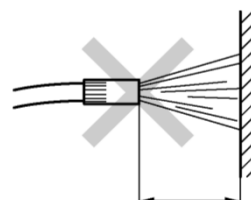
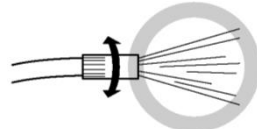
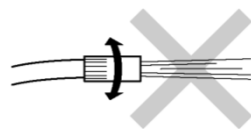
注意

※洗淨ノズルを拡散にし、2m以上離して洗車してください。もし、直射にしたり、不適切に近距離から洗車すると、電気配線部被覆の損傷・断線により、火災のおそれがあります。高圧洗車機の使用方法を誤まると人を怪我させたり、機械を破損・損傷・故障させることがありますので、高圧洗車機の取扱説明書・ラベルに従って、正しく使用してください。

重要

※洗車のしかたが不適切な場合、以下のよう
な機械の破損・損傷・故障の原因になります。

- 1.シール・ラベルの剥がれ
- 2.電子部品、エンジン・トランスミッション室内などへの浸入による故障
- 3.オイルシールなどのゴム類、樹脂類の破損
- 4.塗装、メッキ面の皮膜剥がれ



2m未満

2m以上

■日常点検



警告

給油及び点検整備するときは
※給排油・点検・調節・清掃は、エンジンを停止し、エンジンやマフラがじゅうぶんに冷えてから行なってください。
※平たんな場所に機械を安定させて行なってください。
※上記の作業をおこたると、障害事故のおそれがあります。

1.前日の異常箇所

前日の作業中に異常を感じたところがあれば使用前に支障がないか点検してください。

2.機械の状態確認

- 1)ボルト・ナットのゆるみがないか確認してください。
- 2)車体各部の変形や損傷を確認してください。
- 3)油もれなど異常がないか確認してください。

3.燃料の給油



警告

※給油するときはエンジンを停止し、エンジンやマフラがじゅうぶん冷えてから行なってください。
※火気厳禁。くわえ煙草での給油は絶対にしないでください。
※燃料がこぼれたときはきれいにふき取ってください。
※燃料は規定量(赤色ゲージ)以上入れないでください。
※給油後、燃料キャップはガソリンがもれないようしっかり締めてください。
※上記の作業をおこたると、爆発・火災のおそれがあります。

管理機の簡単な手入れと処置

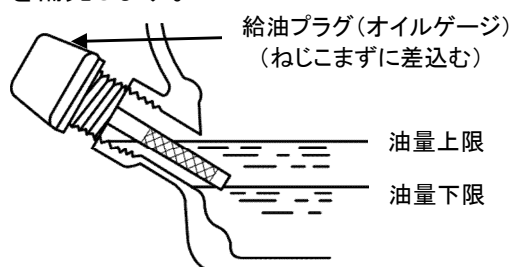
- 1) 機体を水平にした状態で燃料を入れてください。
- 2) 自動車用レギュラーガソリンを補給します。
- 3) 燃料キャップを外し、給油口内の赤色ゲージを超えないように補給してください。

重要

※水やゴミを混入しないようにしてください。

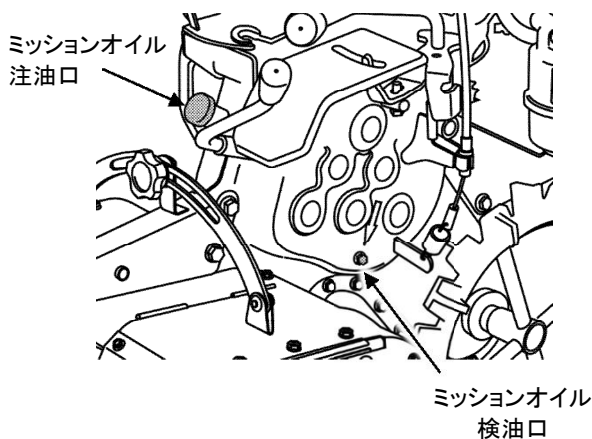
4. エンジンオイルの点検

- 1) エンジンを水平にしオイルゲージを用いて、規定量まで入れます。
- 2) 油面が下限に近い場合は、エンジンオイルを補充します。



5. ミッションオイルの点検

- 1) エンジン水平状態で件油口の位置までであるか点検します。
- 2) 不足している場合は、ギヤオイル(#80、#90)を補充します。

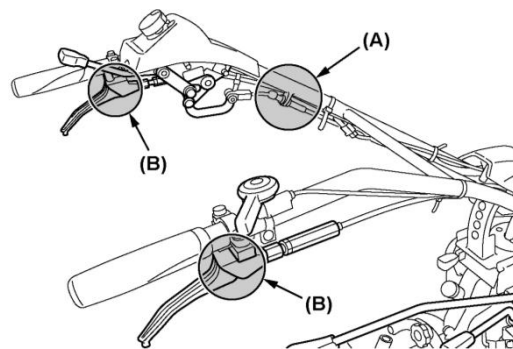


6. エアクリーナの点検

- 1) オイルパンの規定線[OIL LEVEL]までオイルがあるか点検します。
- 2) 不足している場合は、エンジンオイルを補充してください。
- 3) オイルパンのオイルが汚れていないか点検します。
- 4) エアクリーナエレメントにゴミが付着していないか点検します。

7. 各ケーブルへの注油

- 1) 下図(A)部はケーブルのキャップを外し(B)部、はレバーのケーブル部にエンジンオイルを注油してください。

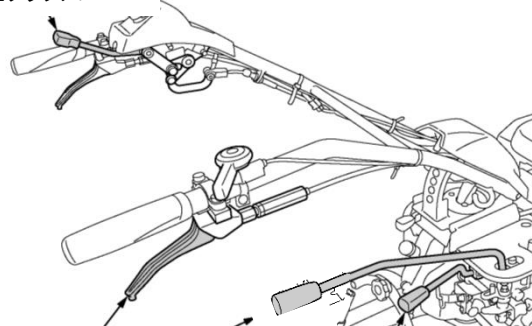


8. その他の点検

- 1) エンジン、ミッションなどから油もれがないか点検してください。
- 2) 各しゅう動部へエンジンオイルを注油してください。
- 3) 各部の損傷及びボルト・ナットのゆるみがないか点検してください。

9. 安全に作業するために

主クラッチレバー



ロータリクラッチレバー 主変速レバー

ロータリ変速レバー

◆主クラッチレバー/ロータリクラッチレバー

- 1) クラッチの[入]・[切]が確実に行なえるか点検します。
- 2) 不良の場合は調整・注油します。

◆主変速レバー/ロータリ変速レバー

- 1) 変速が案内板の表示位置で確実に行なえるか点検します。

◆電気配線

- 1) 被覆が溶けたり被れていないか、また配線がはさまれていないか点検します。

◆エンジン周辺部

- 1) ファンカバーやマフラカバー内にゴミやワラクズの付着がないか点検します。

管理機の簡単な手入れと処置

◆燃料

- 1) タンクや燃料チューブからガソリンもれがないか点検します。
もれがある場合は、修理点検します。
- 2) 自動車用レギュラーガソリンを補給します。
- 3) タンク容量…規定量(赤ゲージ位置)以上入れないようにします。
- 4) 給油後、ガソリンがもれないよう確実に燃料キャップを締めます。

■時間に応じた点検・整備

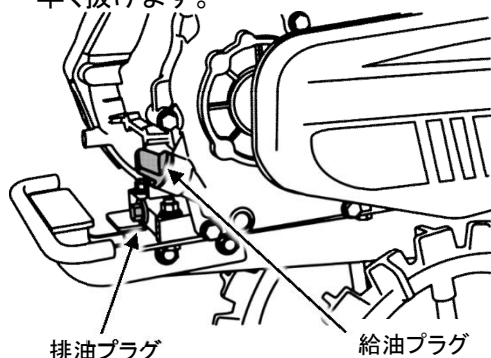
1. エンジンオイルの交換

◆排油のしかた

- 1) エンジンを水平に安定させ排油プラグを外し、排油します。
この時、必ずオイルパン等で受けてください。

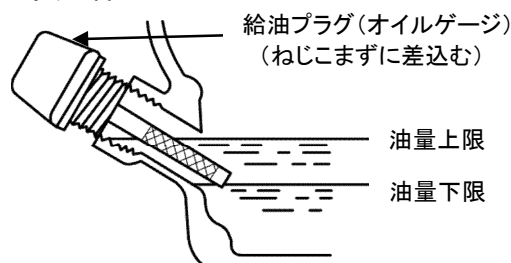
補 足

排油の際は、給油プラグを外すとオイルが早く抜けます。



◆給油のしかた

- 1) エンジンを水平にしオイルゲージを用いて、規定量まで入れます。給油後はプラグを確実に締めてください。



重 要

- ※粗悪なオイルを使用しますと、エンジンの寿命を急激に縮めますので、購入先でエンジンオイルG10W-30 とご指定の上、お求めください。
- ※排油・検油・給油後はプラグを確実に締めてください。

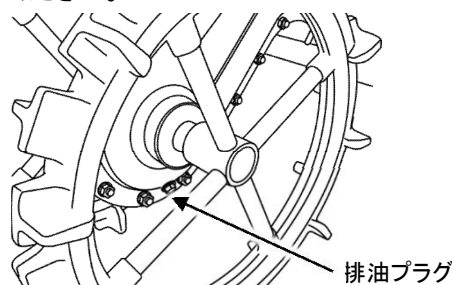
◆オイルの点検と交換表

オイル量	0. 5L	
点検方法	機体水平	
交換時期	第1回目	20時間使用後
	第2回目以降	50時間使用ごと
オイルの種類	エンジンオイル 10W-30	

2. ミッションオイルの交換

◆排油のしかた

- 1) 機体の前部を接地させます。
- 2) ミッションオイル給油プラグを外します。
- 3) ミッションオイル排油プラグを外して排油します。この時、必ずオイルパン等で受けてください。

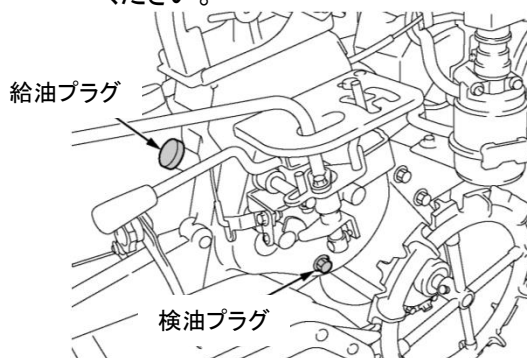


補 足

排油の際は、給油プラグを外すとオイルが早く抜けます。

◆給油のしかた

- 1) エンジンを水平にし検油プラグまで給油してください。



重 要

- ※粗悪なオイルを使用しますと、機械の寿命を急激に縮めますので、購入先でギヤオイル #80又は#90 とご指定の上、お求めください。
- ※排油・検油・給油後はプラグを確実に締めてください。

管理機の簡単な手入れと処置

◆オイルの点検と交換表

オイル量	1. 2L	
点検方法	機体水平	
交換時期	第1回目	20時間使用後
	第2回目以降	1年ごと
オイルの種類	ギヤオイル #80、#90	

3. エアクリーナエレメントの清掃とオイル交換

- 1) 新車(納車)時は、エンジンオイルを入れてください。
- 2) エレメントは時々灯油で洗い、エンジンオイルを塗布して、よく振切ってから取り付けてください。
- 3) オイルパンはよく洗浄し、新しいエンジンオイルを規定量入れてください。
- 4) 規定量・・・OIL ↑ LEVELと記載されているところ。

重要

※エアクリーナーエレメントを取外したままエンジンを始動しないでください。ゴミやホコリを吸込み、エンジン不調やエンジン異常摩耗の原因となります。

※汚れたまま使用しますと、エンジン出力低下や故障の原因になります。

◆エアクリーナの点検表

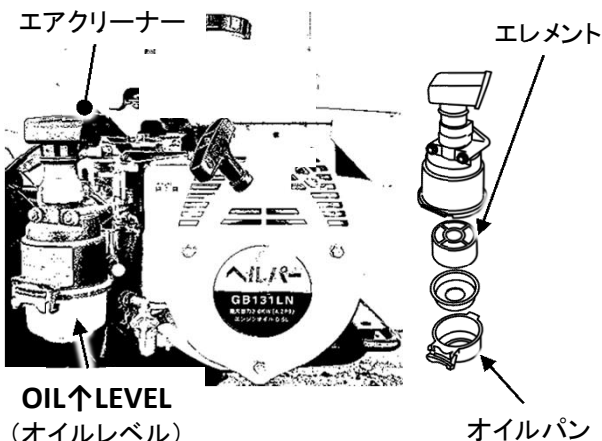
エレメント	清掃	毎日:ホコリの多い場合
エレメント/オイル	交換	50時間ごと

重要

※チリやホコリが多く発生する土入れ作業などで使用する場合は

- (1) ホコリの少ない方向にエアクリーナ吸入口を向けてください。
- (2) 毎日点検してください。

※規定量よりエンジンオイルを入れすぎると、エンジン不調の原因となります。



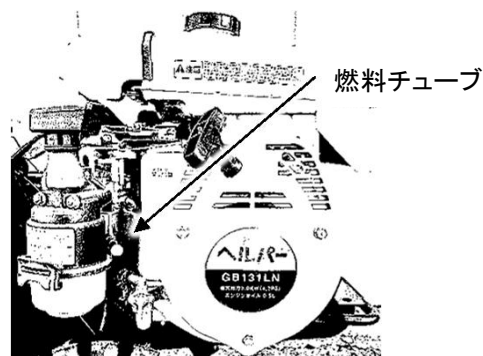
4. 燃料チューブの交換



警告

※燃料チューブは自然劣化したり傷があると、ガソリンもれして火災の原因となります。作業前に毎回点検し、ヒビや割れが発生したものは、新しい燃料チューブと交換してください。

交換にあたっては、購入先にご相談ください。
交換時期: 2年間ごと



5. 燃料フィルタ・タンクの清掃

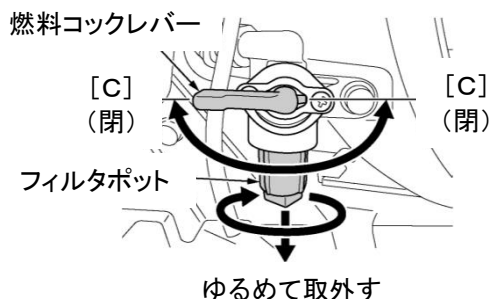


警告

※取付け後、ガソリンもれがないか確認してください。

- 1) 燃料フィルタは、燃料のゴミを取除きます。取除かれたゴミは、ポットの底にたまります。
- 2) 燃料コックレバーを[C] (閉) 位置にし、フィルタポットを外し、ポットの底にたまっているゴミや水を捨ててください。
- 3) 燃料タンク内を点検し、底に異物がたまっている場合は、取除いてください。

交換時期	清掃箇所
50時間使用ごと	フィルタの清掃
300時間使用ごと	タンクの清掃



管理機の簡単な手入れと処置

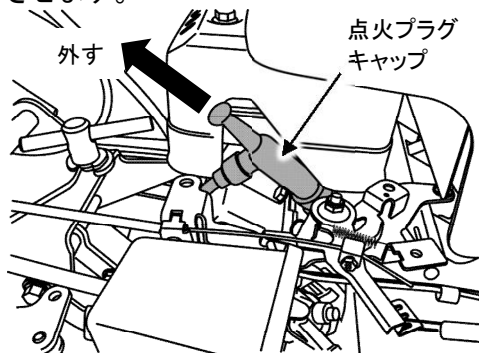
6. 点火プラグの調節・清掃・交換



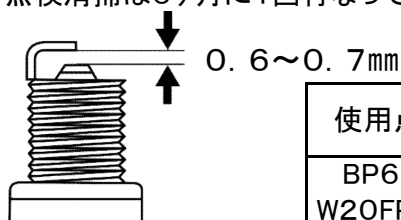
警告

※高温部が冷えてから行ってください。

- 1) 点火プラグキャップを外し、点火プラグを露出させます。



- 2) 付属のプラグボックスでプラグを外して、電極に付着したカーボンを取り除き、紙ヤスリでみがきます。
- 3) 電極の隙間が0.6～0.7mmになるように調節してください。
- 4) 点検清掃は6ヶ月に1回行なってください。



使用点火プラグ

BP6HS (NGK)

W20FP (デンソー)

- 5) 作業が終わったら、点火プラグキャップを元に戻してください。

重要

※プラグ締付け時は、ネジ山をつぶさないように、はじめは手で締め込んでから、プラグボックスで締付けてください。

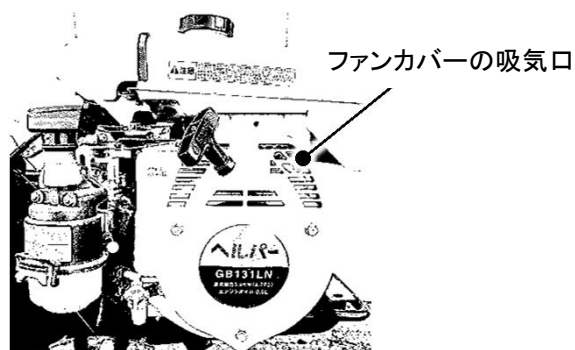
※調節・清掃してもエンジンが不調なときは、新しいプラグと交換してください。

※プラグを外したまま始動操作をしないでください。

■必要に応じた点検・整備

1. ファンカバーの清掃

ファンカバーの吸気口は、きれいに清掃します。ゴミやワラズ等の付着があるとエンジンの過熱や出力低下の原因になります。
(ここからエンジンの冷却風が吸込まれます。)



2. 主クラッチケーブルの調節



警告

※主クラッチケーブルの調節を行なう場合は、必ずエンジンを停止して行なってください。

※調節が終わったら必ずベルトカバーを付けてください。巻き込まれるなど傷害事故を引き起こすおそれがあります。

※エンジンを始動する前に、主変速レバーを中立にしてください。

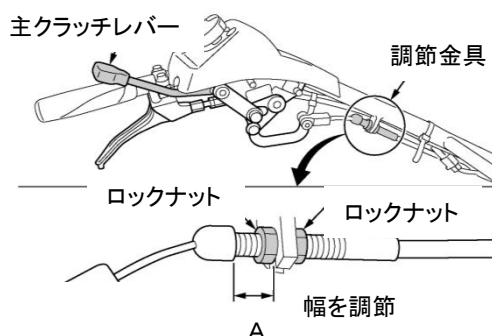
※調節・確認時は周囲に人や動物を近づけないでください。傷害事故を引き起こすおそれがあります。

- 1) ベルトカバーのボルトを外し、ベルトカバーを取外します。

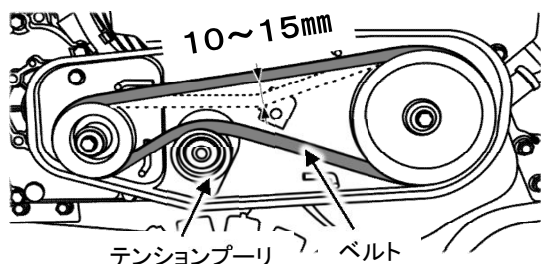


- 2) 主クラッチレバーを入れた状態でベルトの中央部を指で押えて10～15 mm たわむ程度にケーブル調節金具でテンションプーリを調節してください。なお、使用初期はベルトが伸びやすいため、5時間使用後ケーブルを再調節してください。

ベルトがスリップする場合	下図A部を短くする
主クラッチレバーが重すぎる場合	下図A部を長くする



管理機の簡単な手入れと処置



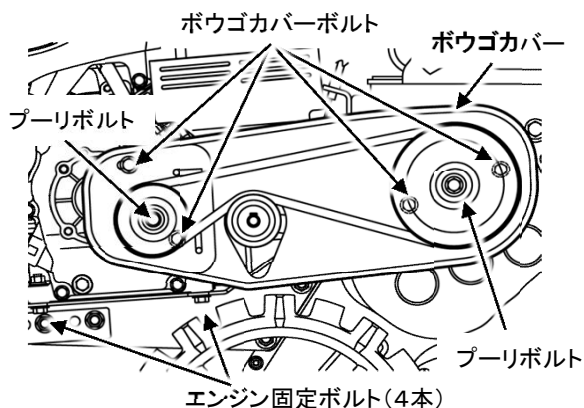
重要

※主クラッチケーブルを調節した場合、エンジンを始動してクラッチの[入]・[切]が確実に作動するか確認してください。

補足

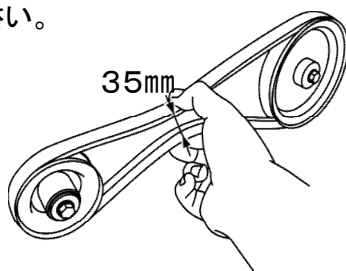
ベルトが伸びたり、又は新しいベルトに取替えたとき、主クラッチケーブルで主クラッチの調節ができない場合は、エンジンを前後に移動して調節します。

- 1) ベルトカバーの取付ボルトを外し、ベルトカバーを取外します。
- 2) プーリを止めているボルトを外し、プーリを外します。
- 3) ボウゴカバーの4本のボルトをゆるめます。調整後は確実にボルトを締付けてください。
- 4) エンジンを固定しているボルトをゆるめて調節します。調節後は確実にボルトを締付けてください。



◆新しいベルトに交換する場合

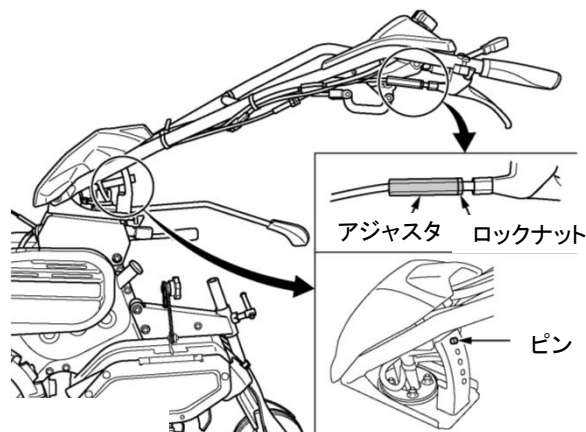
新しいベルトに交換する場合は、ベルト中央部を指ではさんですき間が約35mmにたわむくらいにして、エンジンを固定しているボルトを締付けてください。



※ベルトの交換・調整でご不明な点は購入先にご相談ください。

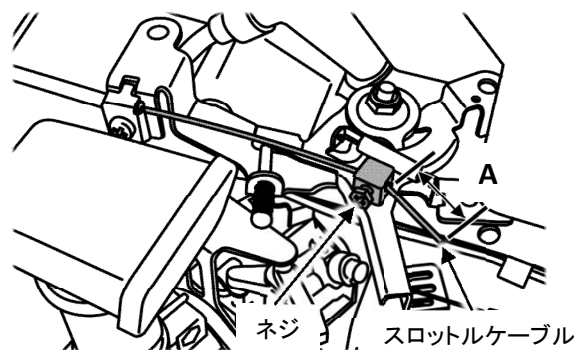
3. ハンドル上下レバーの調節

- 1) ハンドル上下レバーを握ってハンドルが上下に動かない又は調子が悪いときは、ワイヤのアジャスタで調節してください。
- 2) ハンドルを上下にセットしたときにプレートの穴にピンが確実に入っていることを確認し、アジャスタ部のロックナットで固定してください。



4. スロットルレバーの調節

スロットルレバーを最高回転にしてもエンジン回転が上らないときは、スロットルケーブルを止めているネジをゆるめて調節します。ケーブルのA部が長くなるように調節するとエンジン回転数が高くなります。調整にあたっては、購入先にご相談ください。

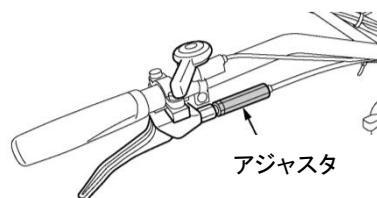


5. ロータリケーブルの調節

ロータリクラッチレバーを握り、ロータリが止まらなかったり、すべっていたりレバーにガタがある場合は、ロータリクラッチワイヤのアジャスタで調整してください。

[切れにくい場合]: アジャスタを長くします。

[入りにくい場合]: アジャスタを短くします。



管理機の簡単な手入れと処置

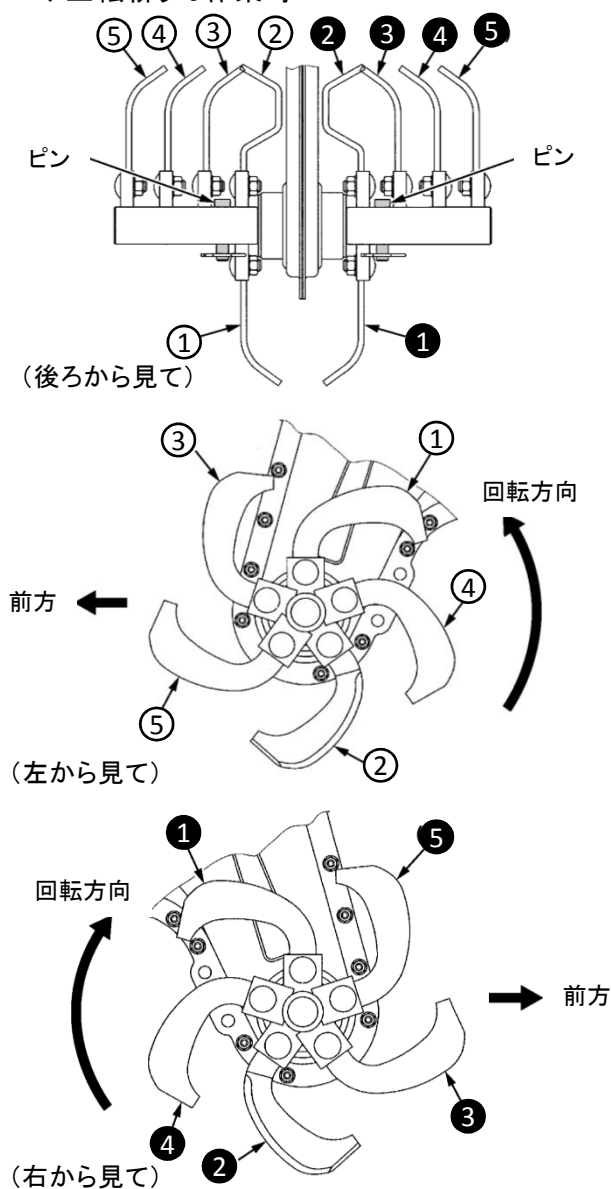
6. 耕うん爪の取付かた



警告

※爪の交換時は、エンジンを停止してください。
 ※爪交換時はロータリに付いた土を落とし、ロータリ部が落下しないようにしてください。
 ※上記の作業をおこたると、傷害事故のおそれがあります。

◆正転耕うん作業時

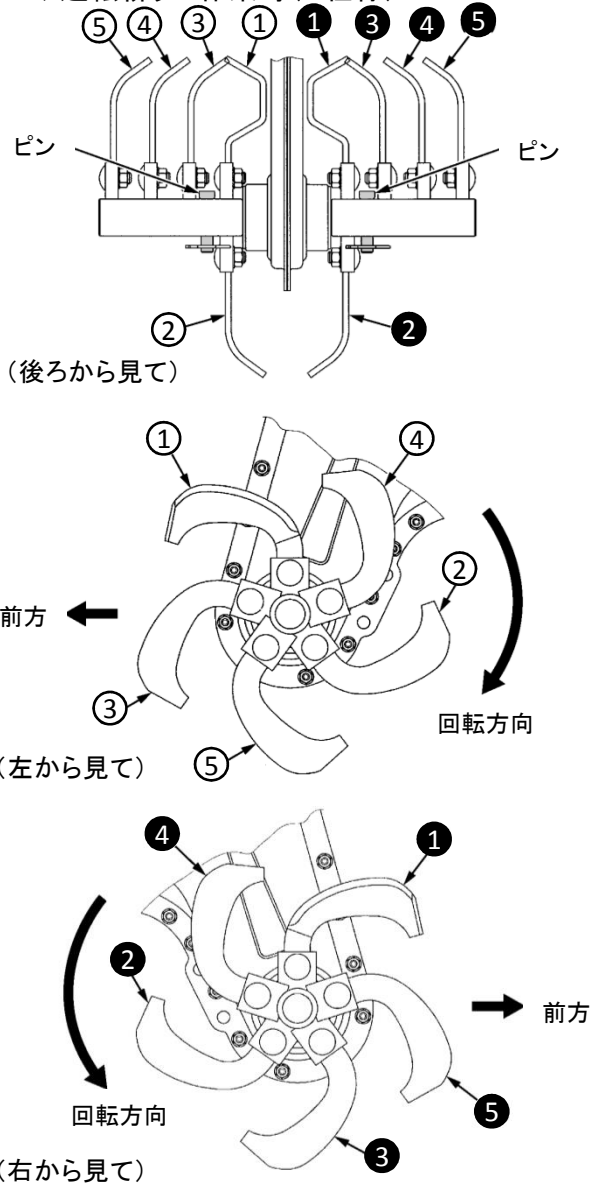


締付けトルク: 48.0 ~ 55.9 N・m

重要

※爪の内外の向き、ならびに種類をまちがえないようにしてください。
 ※作業前には爪の取付けボルト・ナットにゆるみがないか確認し、増締めをしてください。
 ※爪を交換後は、ボルトを確実に締めてください。
 ※爪軸は、上図の様に左右の爪ができるだけ揃う(同時打ち込み)位置になるよう取付けてください。

◆逆転耕うん作業時(S仕様)



締付けトルク: 48.0 ~ 55.9 N・m

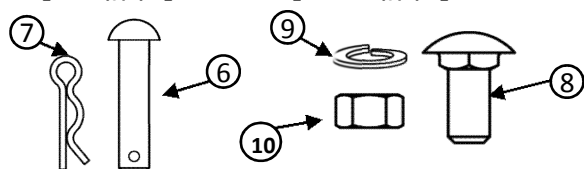
重要

※爪の内外の向き、ならびに種類をまちがえないようにしてください。
 ※作業前には爪の取付けボルト・ナットにゆるみがないか確認し、増締めをしてください。
 ※爪を交換後は、ボルトを確実に締めてください。
 ※爪軸は、上図の様に左右の爪ができるだけ揃う(同時打ち込み)位置になるよう取付けてください。

補足

[ピン詳細]

[ボルト詳細]



管理機の簡単な手入れと処置

※紛失、消耗の場合は品名、品番を購入した販売店に伝え注文してください。

番号	品番	品名	数
①	002901600209000	No.3ヘンケイコウツメ ミキ	1
①	002901600210000	No.3ヘンケイコウツメ ヒタリ	1
②③④⑤	055714531312002	No.3コウウンツメ ミキ	4
②③④⑤	055714531313002	No.3コウウンツメ ヒタリ	4
⑥	282130000419000	マルピン φ10	2
⑦	0551571000	スナッフピン 10	2
⑧	082130000417000	ツメリツケホルト	10
⑨	0451270100	ハネザガネ M10	10
⑩	0211870100	ロッカクナットM10×1.25	10

■使用後の手入れ

使用後は、必ずその日に清掃を行ない、各部に付いている土やゴミを落とし、各しゅう動部はさびないように油やグリス及び防錆剤を適宜塗布してください。特にファンカバー内にゴミが詰まると、エンジンの焼付きなどの原因になりますので、よく点検・清掃を行なってください。

重要

※水洗いのときにエアクリーナ吸気口から水が入らないように気をつけてください。

- 1.エンジン始動不良を防ぐために
エンジン停止後、必ず燃料コックレバーを閉めてください。

重要

※燃料コックレバーを開いたままの状態、保管したり、前に倒したり、また車両で運搬したりすると、エンジン始動が困難となる場合があります。また、クランクケース内へガソリンが流入することもあります。

2.長期格納時の手入れ



警告

※カバーをかけたり、納屋に格納するときは、火災のおそれがあるため、エンジンが冷えてからにしてください。

※燃料がこぼれたときは、きれいにふき取ってください。爆発・火災のおそれがあります。

- 1) 主クラッチレバーは[切]の位置にして保管します。
- 2) 燃料タンク・キャブレター・フィルタポットの中のガソリンは全て抜取ります。
(1ヶ月以上使用しないとき)
- 3) オイルを交換し、各部をきれいに掃除します。
- 4) エアクリーナエレメントを、掃除しておきます。

5) エンジンのシリンダ内に湿気が入って、始動が困難になるのを防止するため、リコイルスタータハンドルを引っ張って、圧縮位置で止めておきます。

6) カバーをかけ、湿気や草・ワラ及びホコリのない場所に置いてください。

7) さびを防ぐため、爪軸を外し、耕うん軸と爪軸の内側を清掃し、油又はグリスを塗布してください。

重要

※ほ場に保管していると、地面からの湿気が多いのでさびやすくなります。

3.燃料の抜取り



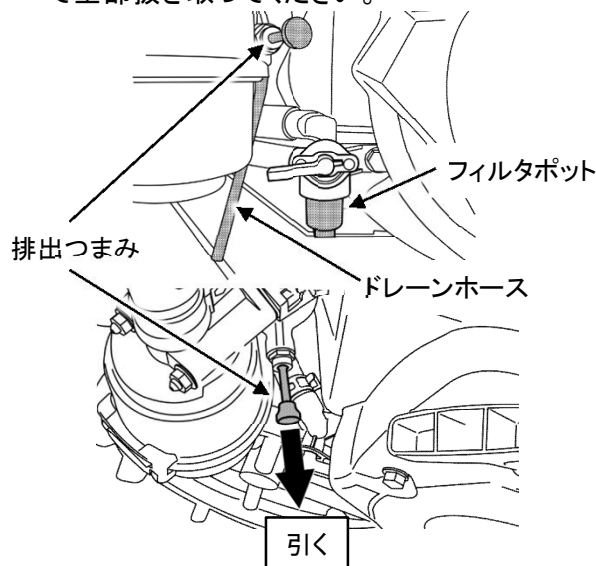
警告

※燃料を抜取るときはエンジンを停止し、エンジンやマフラがじゅうぶん冷えてから行なってください。

※火気厳禁。くわえ煙草での作業は絶対にしないでください。

※燃料がこぼれた時はきれいにふき取ってください。

1ヶ月以上使用しないとき、燃料タンク内のガソリンはポンプなどを使用して抜取り、キャブレター内は排出つまみを引いて、フィルタポットは外して全部抜き取ってください。



重要

※燃料をそのままにしておくと、燃料タンクやキャブレター内のガソリンが変質し、次の始動が困難になります。

管理機の簡単な手入れと処置

■定期点検一覧表

No.	項目		条件	使用時間	参照ページ
1	主クラッチケーブル	調節	使用開始から	使用初期は5時間使用後 その後は必要に応じて	23
2	エンジンオイル	交換	交換第1回目 交換第2回目以降	20時間使用後 50時間使用ごと	21
3	ミッションオイル	交換	交換第1回目 交換第2回目以降	20時間使用後 1年ごと	21
4	エアクリーナ	エレメントの清掃	ホコリの多い場合	毎日	22
		エレメント/オイルの交換	使用開始から	50時間使用ごと	
5	燃料フィルタ・タンク	フィルタの清掃	使用開始から	50時間使用ごと	22
		タンクの清掃		300時間使用ごと	
6	点火プラグ	清掃/調節	使用開始から	6ヶ月に1回	23
7	ハンドル上下	調節	動作異常時	必要に応じて	24
8	スロットルレバー	調節	動作異常時	必要に応じて	24
9	ロータリクラッチ	調節	動作異常時	必要に応じて	24
10	耕うん爪	交換	磨耗、曲がり、損傷	必要に応じて	25
11	燃料チューブ	交換	傷、亀裂があれば 使用開始から	必要に応じて ※2年ごと	22
12	ファンカバー	清掃	使用開始から	必要に応じて	23

※購入先にご相談ください

重 要

※専門的な技術や手入れなどでご不明な点は、購入先にご相談ください。

■給油一覧表

給油項目	容量	種類
燃料タンク	3. 0L	自動車用レギュラーガソリン
エンジン	0. 5L	エンジンオイル 10W-30
ミッション	1. 2L	ギヤオイル #80 、 #90
エアクリーナ	オイルパンの規定量 (OIL LEVEL)	エンジンオイル 10W-30

管理機を運搬するとき



警告

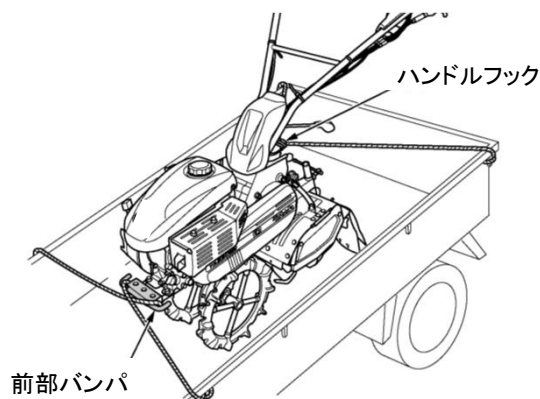
※積込み・積降ろしは、平たんで交通の邪魔にならない安全な場所で行なってください。
※アユミ板はすべり止めの付いた、機体重量に耐えるもので、トラックの荷台の高さ1に対しアユミ板の長さ4以上のものを使用し、確実に固定してください。
※足元に注意し、車速は最低速で上りは[前進1速]、下りは[後進]で行なってください。
※途中で主クラッチを切ったり、変速操作を絶対にしないでください。落下・転倒のおそれがあります。
※トラックは、荷台に天井がない車を使用してください。首や体をはさまれるおそれがあります。
※トラックでの運搬時は、タンク内のガソリンの量を、積込み・積降ろしに必要な最低量とし、残りのガソリンは、別に用意しておいた法で定められたタンクに移して運搬してください。火災のおそれがあります。

■自動車(トラック)への積込み、運搬

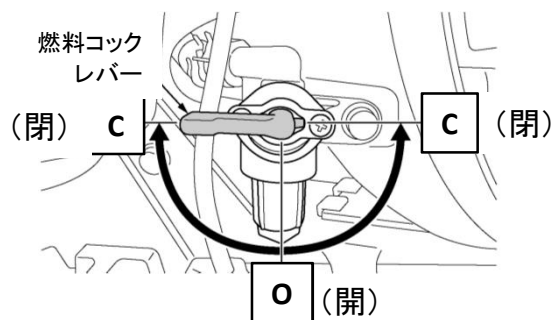
重要

※ロープを掛けるとき、変速レバーや樹脂カバー、小物部品にロープが触れないように気をつけてください。破損したり機能が損なわれるおそれがあります。
※エアクリーナの吸込口にカバーをかぶせないで運搬すると、雨水や砂ホコリが入り、エアクリーナ性能が低下します。
※燃料コックレバーを[O](開)のまま運搬すると、キャブレター内でガソリンがオーバーフローし、エンジン始動が困難となります。また、クランクケース内にガソリンが流入することもあります。

1. トラックを平たんな場所に止め、駐車ブレーキを掛けます。
2. あゆみ板を荷台に確実に固定します。
3. 車速は最低速で、上りは前進1速で、下りは、後進にします。
4. 機体は荷台にロープで確実に固定します。
5. 機体にロープを掛けるときは、前部バンパ・ハンドルフックの2箇所を固定してください。



6. 燃料コックレバーは[C](閉)にします。



7. 雨天時には、エアクリーナの吸気口にカバーをかぶせてください。

付表

■主要諸元

項目			単位	販売型式名	
				K552-S	K552-K
機 体 寸 法	全長	mm	1325		
	全幅		560		
	全高		940		
	機体質量	kg	61	60	
エ ン ジ ン	型式名		GB131LN-354		
	種類		空冷4サイクル傾斜型OHVガソリンエンジン		
	総排気量	L(cc)	0.126(126)		
	連続定格出力	kW(PS)/rpm	2.3(3.1)/1800		
	最大出力		3.0(4.2)		
	使用燃料		自動車用レギュラーガソリン		
	燃料タンク容量	L	3		
走 行 部	始動方式		リコイルスタータ式		
	車輪(タイヤ)		ゴムラグ車輪(直径320mm)		
	輪距	mm	94・178(149・223)		
	主クラッチ方式		ベルトテンション式		
	変速段数	ハンドル正位置	段	前進2・後進2	
		ハンドル逆位置		前進2・後進1	
	走行速度	ハンドル正位置	km/h	前進 1.5~2.8・後進 0.9~1.6	
		ハンドル逆位置		前進 0.9~1.6・後進 1.5	
	車輪の形状・寸法	mm	丸軸・直径 25		
	ハンドル回転方式		段	レバーワンタッチピン式 / 正逆位置左右各2	
ハンドル上下調節方式		レバーワンタッチ式 5段			
ロ ー タ リ	変速段数	段	正転 1・逆転 1	正転 2	
	爪軸回転数	rpm	(正転)268・(逆転)479	(低速)268・(高速)461	
	耕幅	mm	300		
	爪回転径		280		
	爪軸の形状・寸法		丸軸・直径 25		

※この主要諸元は、改良のため予告なく変更することがあります。

■走行速度一覧表

項目		単位	販売型式名	
			K552-S	K552-K
エンジン定格回転数		rpm	1800	
ハンドル正位置	前進1	km/h (m/min)	1.5 (25.5)	
	前進2		2.8 (47.0)	
	後進1		0.9 (14.3)	
	後進2		1.6 (26.3)	
ハンドル逆位置	前進1	km/h (m/min)	0.9 (14.3)	
	前進2		1.6 (26.3)	
	後進1		1.5 (25.5)	
	後進2		-	

付表

■標準付属品

品名	数量/台	備考
プラグボックス	1	
プラスドライバー	1	
取扱説明書	1	
保証書	1	
ガソリンメンテナンス要領書	1	

■主な消耗部品一覧

品名	品番	数量/台	備考
Vベルト (オレンジLB-37)	220740000154000	1	
ケーブル(シュクラッチ)	220740000368000	1	
ケーブル(ロータリクラッチ)	220740000369001	1	
ケーブル(ハンドルジョウゲ)	220740000367001	1	
ケーブル(スロットル)	220740000370000	1	
マルピン φ10	282130000419000	各2	爪軸、車輪取付用
スナップピン 10	0551571000	各2	爪軸、車輪取付用
オイルシールTCD254713	0955254713	各2	耕うん軸、車軸用
ツメジクカンビ 300	220760000600000	1	①～⑨のセット
①ツメジク(300、L)	220760000601000	1	アッシ構成部品
②ツメジク(300、R)	220760000602000	1	
③No.3 コウウンツメ ミギ	055714531312003	4	
④No.3 コウウンツメ ヒダリ	055714531313003	4	
⑤No.3 ヘンケイコウウンツメ ミギ	002901600209000	1	
⑥No.3 ヘンケイコウウンツメ ヒダリ	002901600210000	1	
⑦ツメトリツケボルト	282130000417000	10	
⑧バネザガネ M10	0451270100	10	
⑨ロックナット M10×1.25	0211870100	10	
マッドガード(1)	220740000504000	1	
マッドガード(2)	220760000506000	2	
マッドガード(3)	220740000509000	2	
マッドガード(4)	220740000512000	2	
マッドガード(フロント、W)	220840000517001	1	S仕様のみ

トラブルと対処

■エンジンが始動しないとき

原 因	処 置
・ 始動の手順が間違っている。	1.正しい順序で始動する。 「運転のしかた」(13ページ参照)
・ タンクにガソリンを入れたまま1ヶ月以上保管しガソリンが劣化した。	1.タンク・キャブレター内の劣化したガソリンを排出し新しいガソリンを入れる。 (26ページ参照)
・ フィルタポットに水やゴミが混入している。	1.ポットを外してフィルタエレメントを掃除する。(22ページ参照) 2.または新しいものと交換する。 3.キャブレター内のガソリンも排出する。 (26ページ参照)
・ チョークを引いた(閉じた)状態でリコイルを何度も引きガソリンを吸いすぎた。	1.チョークを戻し(開き)リコイルを引く。 (13ページ参照) 2.点火プラグを外して乾燥させる。 (23ページ参照)
・ エンジン停止後、燃料コックを閉じないで本機を前に倒したり、車両で運搬したため、キャブレターがオーバーフローした。	1.クランクケース内にガソリンが混入していたら新しいエンジンオイルと交換する。
・ エアクリーナエレメントが目詰まりしている。	1.エレメントを外して清掃する。 2.新しいものと交換する。 (22ページ参照)
・ 点火プラグの花火が弱い、飛ばない。	1.点火プラグを外して付着したカーボンを清掃する。(23ページ参照) 2.新しいものと交換する。

■エンジン回転数が上がらない、不安定、出力が不足するとき

原 因	処 置
・ エンジンが暖まってもチョークを引いた(閉じた)まま運転している。 ・ フィルタポットに水やゴミが混入している。	1.チョークを戻す(開く)。 (14ページ参照) 2.ポットを外して掃除する。 (22ページ参照) 3.キャブレター内のガソリンも排出する。 (26ページ参照)
・ エアクリーナエレメントが汚れている。	1.エレメントを外して掃除する。 (22ページ参照)
・ スロットルケーブルの引っ張りが不足している。	1.ケーブルのセット位置を調節する。 (24ページ参照)

■エンジンが振れる、異音が発生するとき

原 因	処 置
・ エンジン取付ボルトがゆるんでいる。	取付ボルトを締付ける。 (24ページ参照)

※上記の処置をしてもトラブルが直らないときは、購入先にご相談ください。

補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後9年といたします。
ただし、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期等でご相談させていただきます。

補修用部品の供給は、原則的に上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

純正アタッチメントは一番よくマッチするよう研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷されていますので、安心してお使いいただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因となります。

品番 220910000751000



関東農機株式会社

本社工場 〒323-0819 栃木県小山市横倉新田 493
/本社営業所 TEL 0285(27)3271(代) FAX 0285(27)4627

鏡石工場 〒969-0403 福島県岩瀬郡鏡石町久来石 57
/福島営業所 TEL 0248(62)4131(代) FAX 0248(62)4133

盛岡工場 〒028-4132 岩手県盛岡市洪民字岩鼻 20-55
/東北営業所 TEL 019(683)1911(代) FAX 019(683)1119

九州営業所 〒866-0813 熊本県八代市上片町 1351
TEL 0965(31)0730(代) FAX 0965(31)0760

・製品のご相談は下記販売店へ